編　ニ使ツタリスル

條　三十糎乃至五十糎ノ間隔ニ杭ヲ打込シテ竹又ハ樹枝ヲ以テ交互ニ各杭ノ間ヲ編ミ上ゲタモノデ被覆ニ用フ

遮蔽　敵人目カラカクレルコト（敵ノ飛行機ニ對シテ遮蔽セヨ）

偽裝　敵ノ目カラカクレル爲ニ色々ト姿ヲカヘルコト

遮蔽網　遮蔽スル爲ニ使フ網、砲車ニカケテ敵ノ目カラカクレタリスル

迷彩　色々ナ色彩ヲ塗ツテ形ヲ見破ラレナイ樣ニシタモノ（側防）

偽陣地　敵ヲアザムク爲ニヤル工事

偽陣地　敵ヲアザムク爲ニ作ッタ陣地

豫備陣地　敵ノ目カラカクレタ樣ニ敵ヲアザムク爲ニ作ッタ陣地

射界　敵人陣地ハ何處カラカラ樣ニ前以テ準備シテオク陣地

射界ノ清掃　必要カ起ツタ時直ク入レル樣ニ前以テ準備シテオク陣地

射界ノ廣ケスル爲ニ邪魔ニナルモノヲ取リ除クコト

射擊ノ出來ル範圍（射界ノ報告）

標示　目標ヲシルシ（夜間ノ標識）

斷崖　暴面露

作業軍紀

第三節　陣中勤務ニ關スル兵語

作業間命令ヲ確實ニ守リ、靜肅ニ動作シ、器具裝具ナトヲ命セラレタ所ニ整頓シ器其他具ノ使用取扱カ確實テアルノハ作業軍紀カイ、ノテアル

掩体　ナトヲ眞上カラ斷チ割ツテ横カラ見タ形

敵ノ目ニサラサレテ居ルコト、遮蔽ノ反對

夜ノ明ケ方

夜ノ明ケヌ前

夜ノ明ケ方ニシテ敵ヲ見通シ出來ル樣ニナツタ時

日ノ暮レカカリノ頃

黄昏　カラ拂曉マテ

夜　イフ某日夜トイヘハ翌日ノ拂曉マテノコトナリ

夜ノ十二時前後ノ時

夜暗（ヤアン）
命令（メイレイ）、通報（ツウホウ）、報告（ホウコク）

夜ノ暗イコト
命令トハ上官ヨリ云ヒ付ケラルルコト、通報トハ互ニ知ラセ合フコト、報告トハ上官ニ申上ケルコト

傳達（デンタツ）
命令、通報、報告ナトヲ傳ヘルコト

傳令（デンレイ）
口上テ又ハ筆記シタルモノデ命令通報報告ナトヲ傳ヘル者

乘馬傳令（ジョウバデンレイ）
乘馬シテ居ル傳令

徒歩傳令（トホデンレイ）
徒歩ノ傳令

第三騎（キ）
乘馬傳令ト同シ

傳唱（デンショウ）
「命セラレタルコトハ間違ナク承知シマシタ、又確カニ傳ヘマス」トイフ決心テソノ場テ云ヒカヘシテ見ルコト

復命（フクメイ）
傳令ナトカ使カラ歸ツテカラ「コノ通リ傳ヘテ來マシタ」トイフ意味テ使先ノコトヲ申上クルコト

最寄（モヨリ）
手近、最寄ノ部隊トイヘハ手近ノ所ニ居ル部隊

情報收集所（ジョウホウシュウシフ）
通報、報告ナトヲ集メル爲ニ設ケラレタルモノ

通筒（ツウトウ）
通信文ヲ入レテ飛行機カラオトス筒

遞傳（テイデン）
次カラ次ヘト傳ヘルコト

漏洩（ロウエイ）
モレル（露國ノ作戰計畫ハ間諜ニヨツテ敵ニ漏洩シタ）

搜索（ソウサク）
敵ノ有樣ヲサクルコト（搜索隊）

偵察（テイサツ）
地形ヤ敵情（敵ノ有樣）ヲ見定メルコト

哨候（ショウコウ）
搜索ヤ偵察ヲスル者

空監視（クウカンシ）
敵ノ飛行機ヲ警戒スル爲ニ空ヲ監視スルモノ

警戒（ケイカイ）
不意ニ敵カ襲ツテ來ルノヲ防キ又敵カ味方ノ有樣ヲ搜索スルノヲ妨クルモノ

前衛（ゼンエイ）、後衛（コウエイ）、側衛（ソクエイ）
行軍間ノ警戒部隊ヲ行軍スル本隊ノ前ヲ警戒スルモノヲ前衛ト云ヒ後方ヲ警戒スルモノヲ後衛又側方ヲ警戒スルモノヲ側衛ト云フ

尖兵（センペイ）、尖兵中隊（センペイチユウタイ）、前兵（ゼンペイ）、前衛本隊（ゼンエイホンタイ）
前衛ノ中ノ區分テアル

本隊前哨　前哨ヲ除イタル戰鬪部隊テアル

複一般守則　宿營地ノ前ノ方ニアツテ警戒シ敵襲ニ備ヘル部隊テアル、歩哨、小哨、前哨中隊、前哨小隊ニ區分サレル

特別守則　歩哨カ二人以上同時ニ一ケ所ニ立ツトキハ之ヲ複哨トイフ

行軍守則　歩哨ハ誰テモ守ラナケレハナラナイ規則

旅程次行軍　一般守則ノ外ニ其ノ歩哨カ特別ニ守ラナケレハナラヌ規則

戰備行軍　軍隊カ或ル所カラ或ル所ヘ運動スルコト

急行軍　歩クヘキ距離（本日ノ行程ハ十里タ）

強行軍　敵ニ出會フ心配ノナイ時ニヤル行軍タ警戒ノ部隊ハ設ケナイノカ普通タ

夜行軍　敵ニ出會フ心配アル時ニヤル行軍テ警戒部隊モ設ケル

歩度ヲ速メテ行フ行軍

一日ノ里程ヲ增シタ行軍

夜中ニ行フ行軍

縱隊　師團ナトカ二ツカ三ツニ分レテ別々ノ道ヲ通ツテ敵ニ向ツテ前進スルトキ右縱隊、左縱隊ナトト云フ

梯團（梯隊）　師團ナトカ二ッカ三ッニ分レテ大キナ距離ヲオイテ行軍スルトキ第二梯團第三梯團ナトト云フ（後續梯團ハ明二日到著）

行軍序列　行軍スル軍隊ノ歩ク順序

行軍長徑　行軍シテ居ル軍隊ノ長サ（砲兵中隊ハ約三百米、一ケ師團全部ハ約）

行軍紀律　行軍シテ居ル間ノ軍紀、服裝、態度ヲ紊サス、勝手ニ隊ヲ離レル樣ナコトヲセス道路ノ一方ヲ開ケテヨク重ナツテ距離ヲ正シクトツテ歩ク樣ナノハ行軍軍紀カイイトイフ

小休止　服裝、馬裝ヲ正シ兩便ヲナシ馬ニ水ヲ與ヘル等ノ爲メ休憩スルコト

大休止　食事ヤ飼與ノ爲ニ休憩スルコト

設營　休宿スルタメ先發者カ行ツテ必要ナル準備ヲスルコト

宿営（シュクエイ）　人家ニ入リ又ハ天幕ヲ張リ或ハ全ク露天ニ泊ルコト

舎営（シャエイ）　人家内ニ宿泊シ休ムコト

露営（ロエイ）　敵ニ近イ時ヤ泊ル人家ノナイ時ニ天幕ヲ張ツタリ又ハ全ク露天ニ泊ルコト

村落露営（ソンラクロエイ）　一部ノ隊ハ露営シ一部ノ隊ハ舎営スルコト

天露（テンロ）　上ニオホヒノナイ所、青天井

舎営司令官（シャエイシレイクワン）　軍隊カ一地ニ舎営シタ時ソノ舎営區内デ一番上ノ人但シ將官ヤ聯隊長ハ次級ノ人ヲ舎営司令官トスルコトカ出來ル

舎営日直將校（シャエイニッチョクシヨウコウ）　舎営シタ時週番司令ノ樣ナ仕事ヲスル人

部隊日直將校（ブタイニッチョクシヨウコウ）　大隊ニ一人出來テ週番士官ノ樣ナ仕事ヲスル人

部隊日直下士官（ブタイニッチョクカシクワン）　中隊ニ一人出來テ週番下士官ノ樣ナ仕事ヲスル人

設営（セツエイ）　軍隊ノ宿営スル準備ヲスル事

警急集合場（ケイキフシフコウジヨウ）　非常ノ時ニ中隊毎ニ集ル場所（砲廠）

非常警報（ヒジヨウケイホウ）　非常ノ知ラセ、直ニ武装ヲ整ヘテ集合シナケレハナラヌ

飛行機警報（ヒコウキケイホウ）　敵ノ飛行機カ來タトイフシラセ、其附近デ上空ニ對シ遮蔽シナケレハナラヌ、夜ハ特ニ火光ヲ漏洩シナイ樣ニスル

瓦斯警報（ガスケイホウ）　毒瓦斯カヤツテ來タトイフ知ラセ、直ニ防毒覆面ヲツケテ命セラレルマテ之ヲ取ツテハイケナイ

舎衛兵（シヤエイ）　舎衛ノ時ニ勤務スル衛兵

哨兵（ショウヘイ）　砲廠ヤ軍旗ナトヲ守ル歩哨

軍需品（グンジユヒン）　戰爭ニ必要ナ品、兵器、彈藥、被服、糧秣ナト

糧秣（リヨウマツ）　人馬ノ食物

大行李（ダイコウリ）　軍隊宿営間必要ナモノ即チ炊具、糧秣、豫備衣服、將校行李、公用行李ナトヲ積ンテアル

携帶糧秣（ケイタイリヨウマツ）　各自テ特ツテ居ル豫備ノ糧秣テ携帶口糧ト携帶馬糧トニ分レル之ヲ使用スルノハ命令アル時ニ限リモノテアル

携帶口糧（ケイタイコウリヨウ）　主食ハ甲乙ニ分レル甲トイフノハ各人精米一日分(六合)乙ハパン一日分(百八十匁)副食物トシテ罐詰食糧カアル

携帶馬糧　馬一頭ニツキ麥一升五合テアル

供給　物ノナイ所ニ分ケテヤルコト

輜重所　彈藥ヤ糧秣ヲ部隊ニ補充シテヤルモノ

彈藥交付所　輜重カ部隊ニ彈藥ヲ補充シテヤル場所

糧秣交付所　糧秣ヲ補充シテヤル場所

繃帶所　衛生隊カ患者ヲ收容スル爲ニ設ケタモノ

開設　ヒラクコト（繃帶所ヲ開設スル）

繃帶包　ガーゼヤ三角巾ヲ包ンダモノデ各人上衣ノ右裾裏ニ入レテ置ク

認識票　戰地ニ行クトキ之ヲ肌身ニツケテ戰死ヲシテモ誰タカワカル樣ニスル

輸送場　鐵道ヤ船デ人馬材料ヲ送ルコト

乘降場　乘リ降リスル場所

搭載號　馬ヤ材料ヲ積ムコト

暗號　敵ニサトラレナイ樣ニ作ツタ合圖ノ言葉

土民給達　ソノ土地ノ人又ハ單ニ地方人（土民ノ言ニ依レハ……）

補充　トチラモ補フ

口達　口デ傳ヘルコト（口達命令）

第四節　戰鬪ニ關スル兵語

戰爭　日露戰爭、日清戰爭トイフ樣ニ全部マトメテ云フ

鬪場　南山ノ戰鬪、首山堡ノ戰鬪トイフ樣ニ一ツ一ツノタタカイ

戰術　戰鬪ノ場所

戰略　兵力ヲ巧ニ使フ方法戰略ハ大キナ兵力ヲ動カス時ニ使フ

戰遇　出會頭ノ戰鬪

戰擊　敵ヲ攻ムルコト

攻陣　陣地ニ據ル敵ヲ攻擊スルコト

防禦　敵ヲ防クコト

決戰　勝敗ヲキメル戰ニサシ

持久戰　モチコタヘル爲ニヤル戰

決戰　決戰ノ日的デヤル防禦

持久　持久ノ目的デヤル防禦

追撃　敵ヲ撃チ破ツタ後備之ヲ追ヒ攻ムルコト

退却　後方ニ退クコト

突撃　敵ニ向ツテ突込ムコト

襲撃　不意ニ敵ヲ襲ヒ攻ムルコト

夜襲　夜間ニ敵ヲ襲撃スルコト

敵襲　敵カ不意ニ我ヲ襲ツテ來ルコト

逆襲　防禦シテ居ル時近ク攻メテ來タ敵ヲ逆ニ襲撃スルコト

攻勢移轉　防禦ニ見セカケテ適當ノ時ニ敵ヲ攻撃スルコト

包囲　敵ヲ取リ卷クコト

包囲攻撃　敵ヲ取リ卷イテ攻ムルコト

迂回　敵ノ背後ニマワルコト

開進　戰鬪ヲ準備スル爲ニ行軍ノ縱隊ヲ一ケ所又ハ數ケ所ニマトメルコト

展開　戰鬪ヲスル隊形ニナルコト

編成　人馬材料ヲワリアテ、部隊ヲ作ル

編組　アル部隊カトンナ兵種カラ成リ立ツテ居ルカヲソノ部隊ノ編組ト云フ

建制　部隊ノ成リ立チ、建制部隊ト云ヘハ他ノ部隊ノ交ハラヌ純粹ナ一ツノ部隊、建制ヲ破ルト云ヘハアル一ツノ部隊カラソノ中ノ若干ヲ引拔クコト

軍隊區分　軍隊ノ分ケ方

行軍ノ時全部隊ヲ前衛、側衛、本隊ナトニ分チ戰鬪ノ時右翼隊左翼隊ナトニ分ツ樣ナモノデアル

右翼隊（左翼隊）　戰鬪ニ移ルト全部ノ隊ヲ右翼隊、中央隊、左翼隊ナトニ分ケル

右翼　右ハシ、左ハシ
左翼　退退却スル部隊ヲソノ掩護ノ下ニ後方ニ集合サセル陣地
容陣地　本陣地ヨリモ前ノ方ニアル陣地
進陣地　前ノ方ニアル陣地
意圖　考ヘ（師團長ハ引續キ前進スル意圖ヲ有ス）
意嚮　本陣地ヨリ東（西、南、北）（旭川以北ノ地區）
以東（西、南、北）　トコロヨリ東（西、南、北）
移動　動トテ所ヲ變ヘル（暗夜ヲ利用シテ兵力ヲ移動ス）
遺漏　モレオチ（準備ニ遺漏ハナイカ）
幾何　トレタケ（敵ノ兵力ハ幾何カ、歩兵三四千砲八門）
配備　兵ヲ要所々々ニクバルコト（敵ノ防禦配備）
敗走　マケテニゲル
牛渡　河ヲ半分渡リカケタ所（敵ノ半渡ニ乘ス）
白戰　及物（刀、劍、槍ナト）テ敵ト渡リ合フコト
爆兵　飛行機カラ爆彈ヲ落ス事
爆彈　爆彈テ物ヲコワスコト
投下　
擊破

任務　ヤクメ
敵情　敵ノ樣子、狀態（敵情偵察）
撲滅　二度ト動ケナイ樣ニタヽキツケル
殲滅　ミナゴロシニスル事
獨斷專行　上官ノ指示ヲマツコトナク自分デ判斷シテヤルコト
統御　下ノモノヲシメククルコト（アノ人ノ統御ハウマイ）
駐軍　軍隊デアル土地ニナカクトマツテ居ルコト
確保　シツカリオサヘテ置クコト
奪取　ウバヒ取ル（敵ノ陣地ヲ奪取ス）
連絡　部隊カオ互ニ樣子カヨクワカル樣ニ人ヲヤツタリ電話ヲ張ツタリスル樣ナコト
疎開隊形　歩兵カ敵彈ノ損害ヲ受ケヌ爲マハリニナツテ歩ク隊形
躍進　或ル地點カラ他ノ地點ヘ一氣ニ進ム事
部署　人員ヲ區分シテソレソレ任務ヲ與ヘルコト

後ニサカル　展開シテ居タ部隊カ攻撃ノ爲メ前進スル事

後ニ待タシテ置イテ必要ノ時必要ノ方面ニ使用シヤウトスルモノ（控置砲兵）

歩兵旅團ニ砲兵、工兵、騎兵ナトヲツケテ師團ノ樣ニ獨立シテ作戰カ出來ル樣ニシタモノ

師團司令部軍、司令部トイフ樣ナモノ

戰車、裝甲自動車等ヲ主体トセル諸兵連合ノ部隊デアツテ火力ト機動力トヲ十分ニソナヘタモノ

師團長ナトカ戰鬪ヲ指揮スル位置

危險ノナイ樣ニ友軍ヲ守ルコト（砲兵掩護ノ部隊）

見張リヲスルコト

敵ノ動作ニツキ油斷ナク氣ヲ付ケルコト

防禦デ警戒ノ任務ヲ持ツテヰル部隊ノ占領シテ居ル陣地

後攻撃　控置　混成族團　高等司令部隊　機甲部隊　戰鬪司令部　掩護所　監視哨　警戒陣地

前進　退　戒

敵ヲ撃ツテ退ケルコト

友軍ヲ援クルコトヲ云フ

新ニ友軍ニ加ハリ之ヲ援クルコトヲ云フ

戰鬪ヲ交フル前後ニ戰略戰術、上部隊カ前後左右ニ動クコト

クワタテ、計畫（攻撃企圖ヲ有ス）

タマス、アサムク（敵ヲ欺騙ス）

防キ止メル

オビヤカス（敵ノ側背ヲ脅威ス）

味方（友軍歩兵）

先ニ遣ハス（先遣部隊）

敵味方ノ有樣

戰鬪ノウツリカハリ

集ルコト

撃援　增機　企欺　拒脅　友先　彼我　戰鬪ノ推移　集

退助援動　圍騙　止威　軍遣　狀況　合

途上	トジョウ		道路上ニ縱隊ニナツテ居ルコト
攻撃	コウゲキ		攻撃スヘキ目標
第一線	ダイイツセン		一番前ノ線（號一線部隊）
豫備	ヨビ		後カラ使フタメ豫備トシテオク部隊
後續	コウゾク		後カラヤツテクル部隊
主陣地	シュジンチ		本當ノ陣地ノアル場所
比隣	ヒリン		隣ノ部隊
掩護	エンゴ		小サイ豫備隊ノ樣ナモノ
直接協同	チョクセツキョウドウ		歩兵ノ或部隊ニ直接協同スル砲兵
隨伴	ズイハン		歩兵ノ前進スルノニクツツイテ前ニ進ンテ行ク砲兵
配屬	ハイゾク		歩兵ノ或部隊ニツケラレタ砲兵
自動	ジドウ		自分デマモルコト
自動火	ジドウカ		機關銃、輕機關銃ノ樣ナモノヲ云フ
兵力	ヘイリョク		兵員ノ數

主力	シュリョク		大部分ノ兵力
一部	イチブ		一部分ノ兵力
連繫	レンケイ		左右ノ連繫トイヘハ左ノモノト右ノモノカ互ニ手ヲ握ツテヤルコト手ヲ携ヘテヤルコト提携シテヤルコト
優勢	ユウセイ		スクレテヰルコト、兵力優勢トイヘハ兵力カスクレテヰルコト
劣勢	レッセイ		カトツテヰルコト、兵力劣勢トイヘハ兵力カオトツテヰルコト
戰況	センキョウ		戰鬪ノ有樣、樣子、戰況有利トイヘハ模樣カイイコト
決心	ケッシン		アアジョウ、カウショウト心デキメルコト、師團長カ攻擊ショウ防禦ショウナトトキメルノヲ師團長ノ決心トイフワケ、何故カウシタカトイフワケ
理由	リユウ		手配リヲスルコト
處置	ショチ		味方ノヤル事ヲカクス爲メ、又ハ敵ノ見ル事ヲ妨クル爲メ
煙幕	エンマク		

突破（トツパ）　作ツタ煙ノ幕突キ破ル（敵陣地ヲ突破ス）

奇襲（キシユウ）　不意ニ襲フコト

急襲（キユウシユウ）　不意ニシカモ猛烈ニ襲フコト

挺進（テイシン）　本軍ヨリモスツト前ニ進ンテ行クコト

掌握（シヨウアク）　手ノ中ニオサメル握ル（部隊ヲ掌握ス）

制壓（セイアツ）　オサヘツケテ頭ヲ上ケラレナイ様ニス（砲兵ノ制壓射擊）

抵抗（テイコウ）　手向フコト（頑強ニ抵抗ス）

戰果（センクワ）　敵ノ陣地ニ突擊シテ穴ヲアケタ後豫備隊等ヲ使ツテ益々ソノ穴ヲ大キクシテ遂ニ敵カソノ陣地カラ退ク様ニスルコト

擴張（カクチヨウ）

砲兵（ホウヘイ）　砲兵ノ戰鬪スル場所ヲ云フ

放列（ホウレツ）　砲車ヲ入レテ射擊ヲ行フ陣地

觀測（クワンソク）

陣地（ジンチ）

所（ショ）

進入路（シンニユウロ）　砲車ヲ放列陣地ニ導ク通路ヲ云フ

陣地（ジンチ）　砲車ヲ放列陣地ニ導ク動作

陣地變換（ジンチヘンクワン）　砲兵陣地ヲ他ノ處ニ變ヘルコト

戰鬪區域（セントウクワイキ）　或部隊カ戰鬪ヲスル區域

火網（クワモウ）　陣地ノ前ヲ各種ノ火器（小銃、機關銃、輕機關銃、歩兵砲等）ノ十字火テ網目ノ様ニ蔽ツタモノ

肉迫攻擊（ニクハクコウゲキ）　敵ノ戰車ニ近付イテソノ「カタピラ」（履板）ニ地雷ヲ履マセタリ、然ハ飛乘ツテ搭乘者ヲ襲ツタリスルコト

第五節　射擊ニ關スル兵語

射角（シヤカク）　砲身ノ上下ノ傾キ、水平線ト砲身トナス角度

射向（シヤコウ）　射擊スル方向、砲身ノ向イテ居ル方向

射向變換（シヤコウヘンクワン）　射向ヲ左又ハ右ニ換ヘルコト

射距離（シヤキヨリ）（射程）　射擊スル距離（射程ヲ百米伸セ）

高低角（コウテイカク）
砲車ノ位置ト目標トノ高低ノ角度ヲイフ

最低表尺（サイテイヒヨウシヤク）
砲車ノ前ニ森林ナトカアル爲メ或ル距離カラ近クハ射撃カ出來ナイ、ソノ時ノ距離ヲ最低表尺トイフ、例ヘハ最低表尺千米トイヘハ千米以内ハ射撃カ出來ナイ

射撃諸元（シヤゲキショゲン）
射撃ノ出來ル範圍（射界（カイ））ノ報告）
方向角、射距離、高低角、信管修正量ヲヒツクルメテイフ

射撃目標（シヤゲキモクヒヨウ）
射撃スヘキ敵或ハ工事等ヲイフ

目標變換（モクヒヨウヘンクワン）
射撃目標ヲ他ニ換ヘルコト

射撃着（シヤゲキチヤク）
發射シタ彈丸

彈着（ダンチヤク）
射彈カ地上ニ落チテ破烈スルコト

鬼火（クワイクワ）
射彈カ空中テ破烈スルコト

彈道（ダンドウ）
彈丸カ空中ヲ通ツテ行ク道

彈點（ダンテン）
彈丸ノ落チタ所

鬼火點（クワイクワテン）
鬼火シタ點

破烈點（ハレツテン）
破烈點ノ眞下カラ目標迄ノ距離

破烈距離（ハレツキヨリ）
彈丸カ破烈スル時ノ高サ

基高（キコウ）
彈丸カ曳火スルトキ破烈高カ丁度良イ高サノ時基高トイフ

破片（ハヘン）
彈丸ノカケラ、キレハシ

彈痕（ダンコン）
彈丸ノ落チタアト、通常穴ニナツテヰル

照準點（シヨウジユンテン）
砲車ヲ或ル所ニ向ケル爲ニ眼鏡テ照準スル點

標定點（ヒヨウテイテン）
射向ヲキメテカラ眼鏡ヲマワシテ或一點ニツケテオクソノ點

基準點（キジユンテン）
中隊四門ノ砲車ノ中基準トナル砲車ノ砲身ノ方向（通常右砲車）

射向（シヤコウ）
中隊長カ射撃ノ指揮ヲ爲ス爲ニ定メタ點

標基（ヒヨウキ）
大隊長カ射撃ノ指揮ヲ爲ス爲ニ（中隊ニ目標ヲ示ス時基準トスル）定メタ點

射撃圖（シヤゲキヅ）
射撃ノ參考トナルコトヲ書イタ要圖

寫景圖

敵火猛射斜射側射蓊射効力射準備

試射基礎諸元基準諸元効力夾叉夾叉濶度

ミトリ圖、景色ヲ目ニウツツダ通リ書イタ圖

敵ノ銃彈ヤ砲彈（敵火ノ効力大ニシテ前進困難ナリ）

盛ンニ射擊ス（機關銃ノ猛射ヲ受グ）

目標ヲ斜ノ方向カラ射擊ス

目標ヲ横ナクリニ射擊ス

縱隊トナツテ井ル軍隊ヲ前又ハ後カラ射擊ス

確實ナ射擊諸光ヲ知ル爲ニ射擊ヲシタリ（試射）或ハ計算

ヲシクリスル事

試射ヲスル地點

効力射擊準備ノ結果分ツテ來ル諸元

効力射擊ニ移ル

目標ヲ遠近ノ二距離デハサムコト

目標ヲ三千米ト三千二百米デ夾叉スレハンノ夾叉濶度ハ二

百米テアル

遠極限、近極限

制壓

撲滅

破壞

集中射擊

交通遮斷ノ爲ノ射擊

擾亂ノ爲ノ射擊

補修妨害ノ爲ノ射擊

目潰ノ爲ノ射擊

目標ヲ夾叉シタ時遠クノ距離ヲ遠極限、近クノ距離ヲ近極

限トイフ（三千米ト三千二百米デ夾叉シタ時三千二百米ハ

遠極限三千米ハ近極限テアル）

射彈ニ以テ敵ヲ壓ヘ付ケルコト（制壓射擊）

射彈ヲ以テ敵ヲタヽサツプスコト（撲滅射擊）

射彈ヲ以テ敵ノ砲兵、機關銃、工事ナトヲウチコハスコト

（破壞射擊）

數中隊ノ射彈ヲ同シ目標ニ集メ射擊スルコト

敵ノ交通カ出來ナイ樣ニスル爲ノ射擊

敵ノ司令部、宿營地、集合場、停車場ナトヲ射擊シテ敵ヲ

擾亂シ（亂レサワカス）（ソノ場所ニ居レナイ樣ニスルモノ

一度破壞シタ障碍物ナトヲ敵カ補修（ツクロリ）スルコト

カ以來ナイ樣ニスル爲ノ射擊

煙幕ヲ作ツテ敵ノ目カトトカナイ樣ニスル爲ノ射擊

直接支援ノ爲ノ射擊
阻止ノ爲ノ射擊
彈幕
固定彈幕
移動彈幕
夜間射擊
掩護射擊
追擊射擊
火力ノ集中
火力配置

歩兵ノ前進ヲ直接ニ援ケル爲ノ射擊

敵ヲ阻止（クヒトメル）スル爲ニ行フ射擊

或ル場所ニ或ル時間引續キ射擊シテ射彈ノ幕ヲ作ツタモノ

彈幕ヲ同シ場所ニ作ツタモノ

彈幕ヲ友軍ノ歩兵カ前進スルニ從ツテ段々前方ニ移動スルモノ

夜間ニ行フ射擊

前ニ出テ行ク部隊ヲ出易イ樣ニ後カラ射擊ヲ以テ敵ヲナサヘツケテヤル事

退却中ノ敵ヲ敵距離ヲ伸シテ射擊スルコト

火器ノ力、タタ火器ノ數ダケヲイフコトモアル

澤山ノ火力ヲ或ル所ニ集メルコト

或所ニハ何中隊分ノ火力或所ニハ何中隊分ノ火力トイフ樣ニ配置スルコト

火制地帶
射擊地域
超過射擊

火力デ敵ヲオサヘツケラレル地帶

射擊スル地域、幅ト奥行ノアル地域

友軍ノ後カラ友軍ノ頭ヲコシテ行フ射擊

第六節 觀測通信ニ關スル兵語

觀測小隊
挺進班

中隊ノ射擊諸元ヲキメタリ、敵情ヲ搜索シタリ、射彈ヲ觀測シタリ尙ホ中隊內外ノ連絡ヲ行ツタリスル小隊

觀測小隊ノ中デ觀測掛下士、通信掛下士、乘馬觀測手、乘馬通信手カラ成リ陣地偵察ノ時ニ觀測小隊長ト共ニ先行シ

觀測所

射擊ノ準備ヲスルモノ

砲兵ノ中隊長ヤ大隊長ナトノ居ル所デ射彈ヲ觀測シタリ戰況ヲ見タリスル所

補助觀測所

觀測所タケデハ見エナイ事カアル時ニ補助ノ爲ニ出ス觀測所

射彈（發射シタ彈丸）ノ遠近（目標ヨリ遠イカ近イカ）方向（目標ノ右カ左カ）高低（曳火ノトキニ目標カラノ高サ）ヲ觀測（見ル）スコト

敵ノ有樣ヲサクルコト

前方ノ地形ヲ見定メルコト

射彈觀測

敵情搜索

前地偵察

坐標測地

陣地基準點

方向基準線

測角基準點

標定區域

目標搜索

番號

敵情ヲ搜索スル區域

目標ニ附ケタ番號例ヘバ1砲兵、2砲兵、イ歩兵、ロ歩兵トイフカ如シ

遠隔觀測

觀測斥候

連絡施設

電話通信

視號通信

手旗通信

信號

射擊通信

副信

空地連絡

布板信號

中隊長カ放列カラ離レテ中隊ヲ指揮シ射彈ヲ觀測スル事

高イ所ニ登ツタリ前ノ方ニ出テ行ツタリシテ前方ノ敵ノ樣子ヤ射彈ノ樣子ヲヨク見ル斥候

連絡ノ爲ニ設ケタ色々ノ事

電話通信、視號通信、遞傳ナトデアル

本部、中隊、斥候等ノ連絡ヲスル爲ニ電話デ通信スル事

手旗、單旗ナトデ通信スル事、記號ヲ定メテオイテオ互ニ

日デ見テ通信スル事

手旗デ通信スル事

手旗ヤ單旗デ擊ノ信號ヲスル事

電話ナトデ通信ナシテ居ル時故障カ起キタ時ノ準備ノ爲ニ

手旗、單旗ナトヲ準備シテ何時デモ出來ル樣ニスルコト

航空機ト地上部隊トノ連絡

地上部隊カラ航空機ニ連絡スル一ツノ方法

身振信號　射擊號令カ音聲テハ傳タハラヌ時手眞似ナトヲ使ツテ傳ヘルコト（例ヘハ裝面ノ時等）

通信所　通信ヲスル所

第七節　其他ノ兵語

擔任　受ケ持ツコト（擔任教官）

指示　指シ示スコト（捜索區域ヲ指示ス）

待機　好キ機會ヲ待ツコト

斷行　斷然行フコト（熟慮斷行）

放棄　ウツチヤラカスコト（敵ハ銃砲ヲ放棄シテ退却シタ）

威嚇　オトシツケル（敵ヲ威嚇スル目的ヲ以テ射擊セヨ）

配當　ワリアテル（區域ヲ配當ス）

配賦　物ヲクハレ（各部各中隊ニ一部宛配賦ス）

背後　ウシロ（特ニ背後ヲ警戒セヨ）

範圍　アル制限ヲ越ヘナイトコロ（此ノ範圍ニ於テ宿營スヘシ）

判明　明カニワカル（敵砲兵ノ位置カ判明シタ）

半減　半分ニ減ル

發展　ハナ〳〵シクナル（戰況發展セリ）

任命　アル役目ヲ仰セツケルコト

眼鏡　眼鏡ヲ使用セスニ自分ノ目ヲケテ見エルコトヲ肉眼テ見エルトイフ

妨害　妨ケル（敵ノ射擊ヲ妨害ス）

變更　カヘル（豫定ヲ變更スル）

變化　カハル（敵情ニ變化ナイカ）

獨力　他人ノ力ヲ借ラヌコト（前衞ハ獨力敵ヲ攻擊セントス）

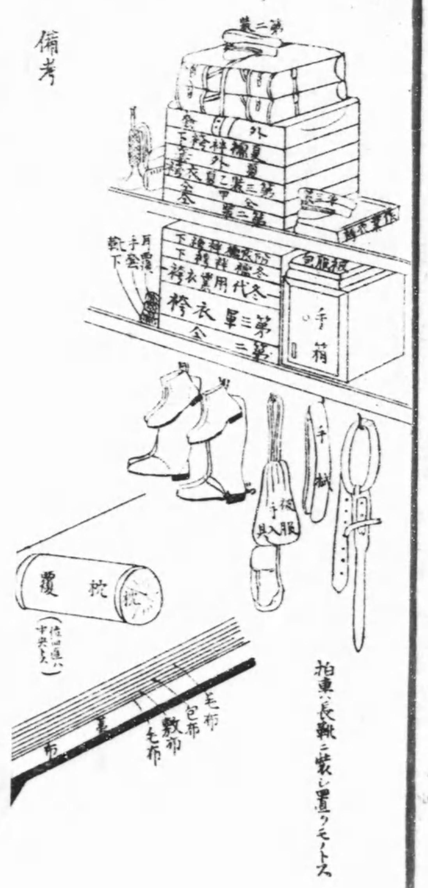
當面　自分テ向ツテ居ルトロ（當面ノ敵情ニハ變化ナシ）

當該　ソノ（當該部隊トイヘハソノ部隊ノコト）

當地　コチラ

動静（ドウセイ）　ヨウス、有様（敵ノ動静ヲ監視セヨ）
揺動（ヨウドウ）　ウコキミタレル事（敵兵動揺ノ色アリ）
意見（イケン）　人ノ意見ト同シ意見ヲ持ツコト
次々（ツギツギ）　ダンダン（敵兵ハ逐次近接ス）
一一（イチイチ）　一ツ一ツ（觀測シタ事ヲ逐一報告セヨ）
重重（チヨウチヨウ）　同シ事カ重ルコト
重畳（チヨウジヨウ）　チリカキネル、二段ニスル（重畳配備）
中絶（チユウゼツ）　途絶トモイフ、途中テキレルコト（射撃ヲ中絶シタ）
遲滯（チタイ）　ハカトラヌコト（行進遲滯ス）
離隔（リカク）　ハナレテ居ルコト
應急（オウキユウ）　マニアフセ（應急手當）
確定（カクテイ）　シツカリキマル
齟齬（ソゴ）　クイチカイ
有無（ウム）　アルカナイカ（損害ノ有無ヲ報告スヘシ）

區署（クショ）　ソレソレ處置スルコト（部隊ヲ區署スル）
空彩（クウサイ）ニ投影（トウエイ）ス　高イ所ニアルモノカ晝テモ夜テモ空ニウツツテ下カラ見ス
形勢（ケイセイ）　カサレルコト
率制（ソツセイ）　アリサマ、景況ニ同シ
偽騙（ギヘン）　敵ヲオビキヨセソノ自由ヲ奪フ
不備（フビ）ノ點（テン）　アサムクコト（偽騙行動）
復歸（フクキ）　ト、ノツテキナイ所（不備ノ點ヲ補修セヨ）
拘泥（コウデイ）　元ニカヘル（所屬中隊ニ復歸スヘシ）
交渉（コウシヨウ）　カ、ワル（ソンナコトニ拘泥スル必要ハナイ）
顧慮（コリヨ）　カケアイ（隣中隊ト交渉セヨ）
招致（ショウチ）　アル事ニ心ヲ向ケル事（敵火ヲ顧慮セヨ）
熟地（ジユクチ）　招ク（大隊長ハ各中隊長ヲ招致ス）
生地（セイチ）　ヨク知ツテキル土地
　　ハシメテノ土地



成果ヒ

進捗ニ伴ヒ

先制コ

爾後ハ

爾餘殘

現境遇

頓挫

眞偽

眞相

極力抵抗ス

徴候

物事ヲナシトケタ時ノトリ入レ

ハカトルニツレテ(戰鬪ノ進捗ニ伴ヒ砲兵ヲ前進セシメヨ)

機敏迅速ニ動作シテ先手ヲウツコト

コレカラ後ハ

殘リノモノ

現在ノアリサマ

クヂケル (攻擊頓挫ス)

ウソカマコトカ (眞偽不明ナリ)

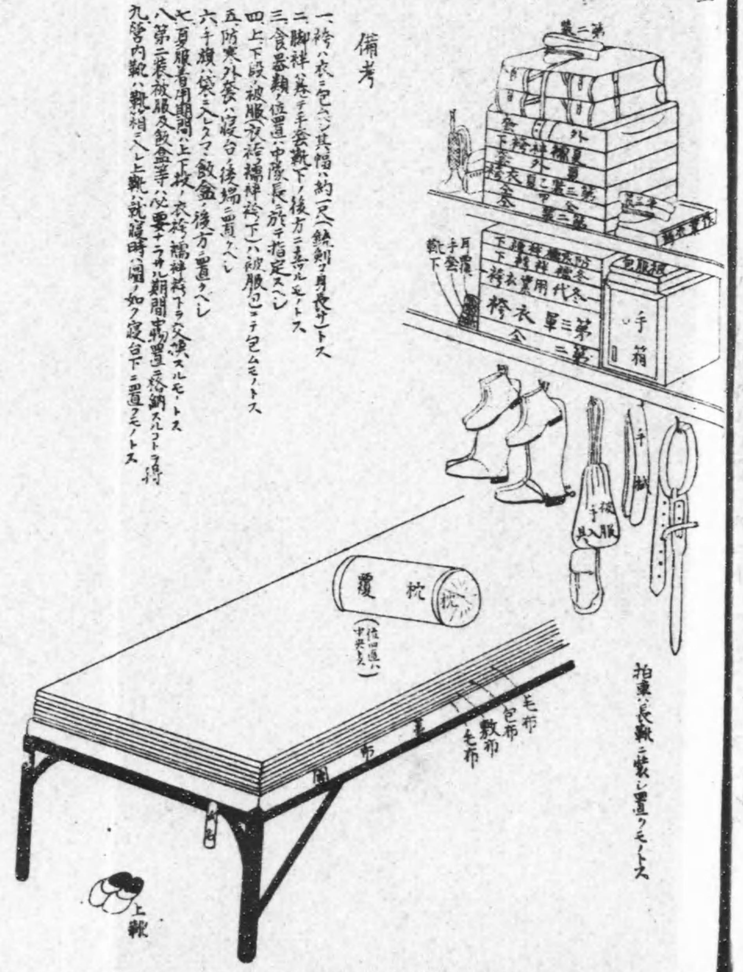
實際ノコト (眞相ヲ確メテ見ヨ)

力ノ限リ (極力抵抗ス)

狀況ヲ知リ得ルシルシ

下士官以下各自保管兵器被服等装置要図

（冬衣袴着用期間ニ於ケル）



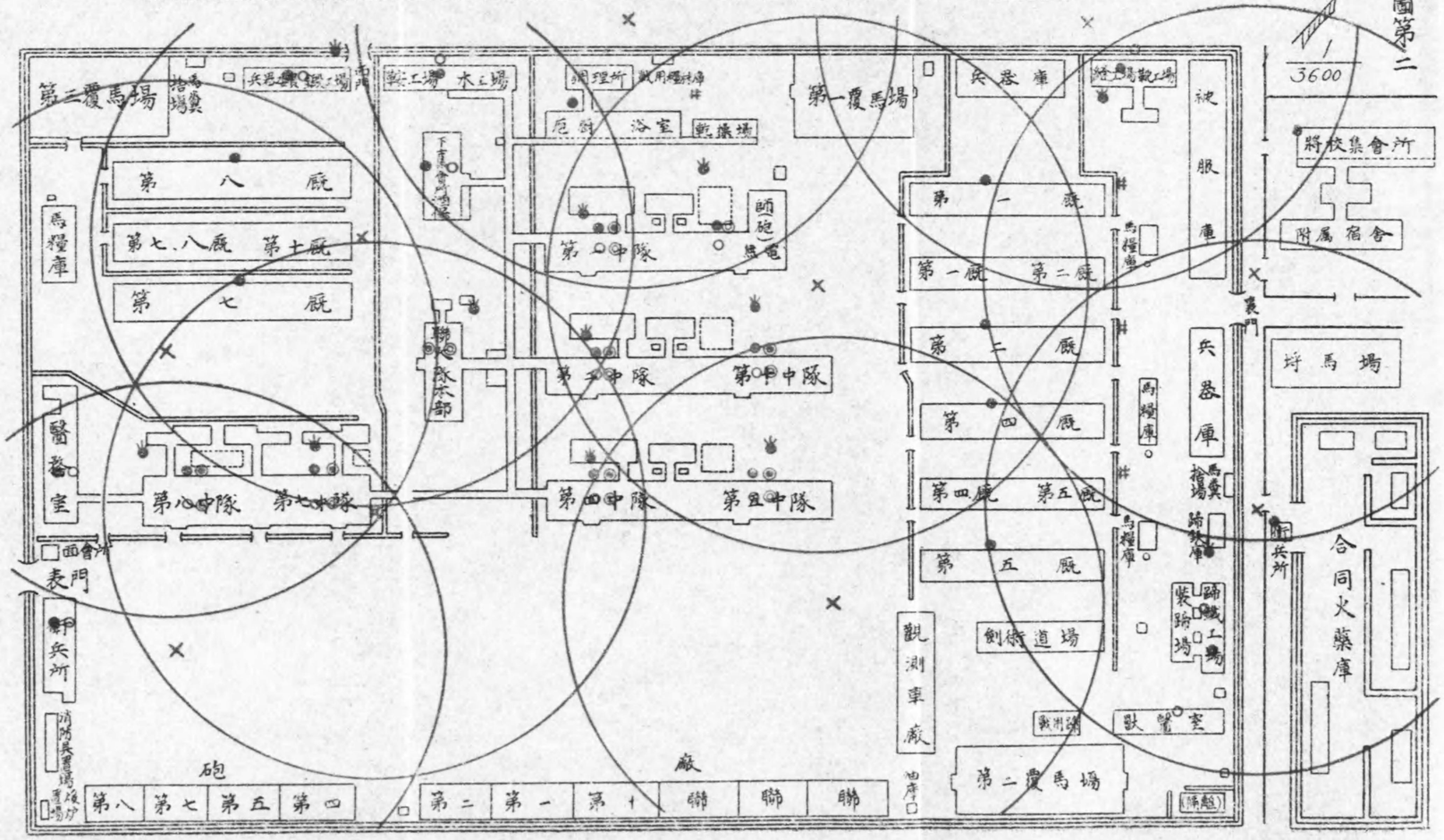
拍車ハ長靴ニ装シ置クモノトス

備考

一、袴ハ衣ニ包ミ其幅ハ約二尺八寸鉄剣ノ身長サトス
二、脚絆等ハ手套靴下ノ後方ニ置クモノトス
三、食器類位置ハ中隊長ニ於テ指定スベシ
四、上下段被服及袴襦袢袴下ハ被服包ニテ包ムモノトス
五、防寒外套ハ寝台ノ後端ニ置クベシ
六、手旗ハ袋ニ入レマ、鉄盆ノ後方ニ置クベシ
七、夏服着用期間ハ上下段ノ衣袴襦袢等ヲ交換スルモノトス
八、第二装被服及鉄盆等ハ必要ナル九期間蔵置ニ移納スルコトヲ得
九、管内靴ハ靴相ニ入レ上靴ハ就寝時ハ圖ノ如ク寝台下ニ置クモノトス

附圖第二

輕便消火器、消火水桶、井戸及水道消火栓ノ位置並消火栓効力範圍要圖

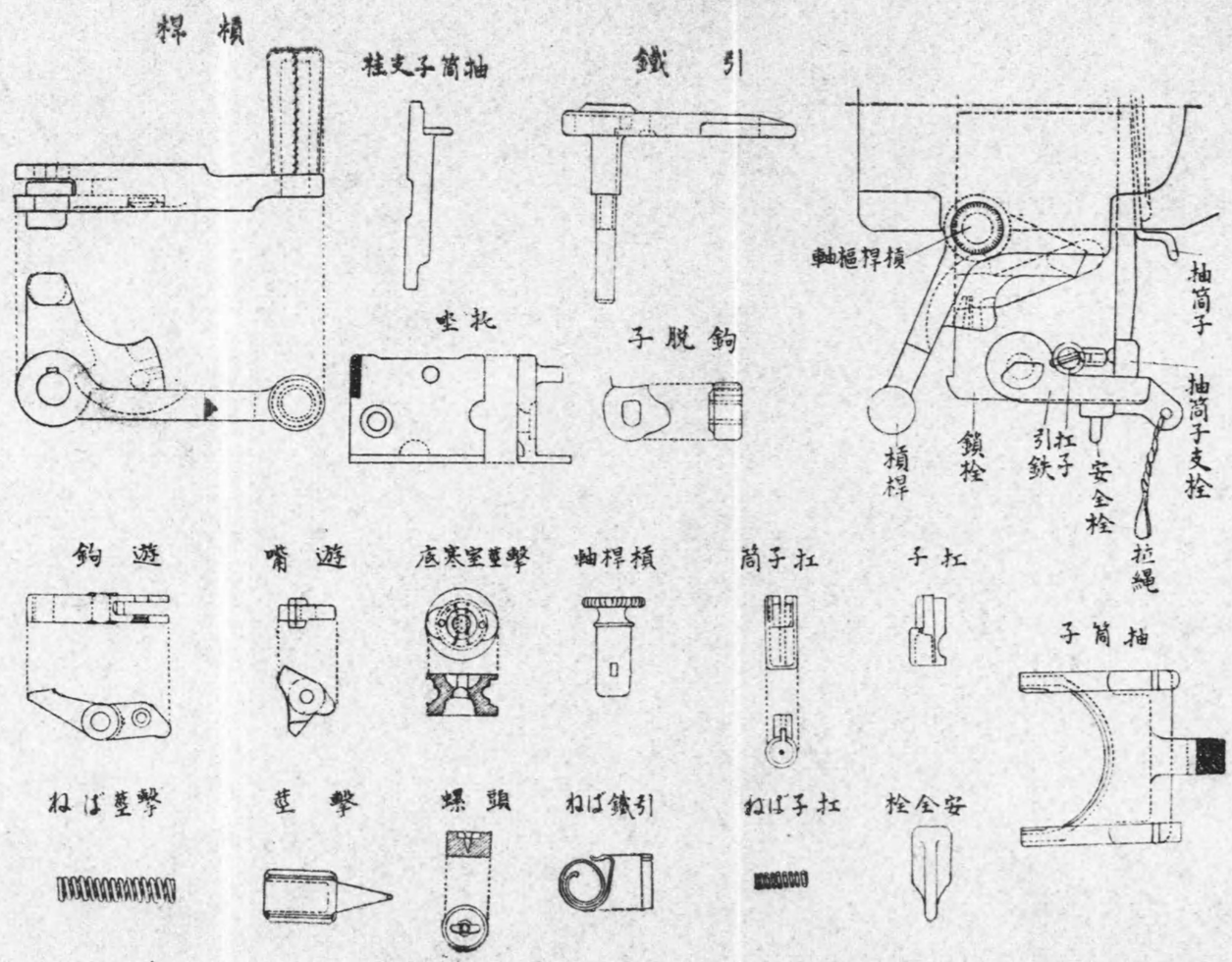

1/3600
第二覆馬場
第一覆馬場
兵器庫
被服庫
將校集會所
附屬宿舍
馬場
合同火藥庫
第八厩
第七、八厩
第十厩
第七厩
第一厩
第二厩
第三厩
第四厩
第五厩
第四厩
第五厩
第五厩
第一厩
第二厩
第一中隊
第二中隊
第三中隊
第四中隊
第五中隊
第七中隊
第八中隊
醫務室
表門
兵所
馬糧庫
裏門
裏門
裏門

放列砲車

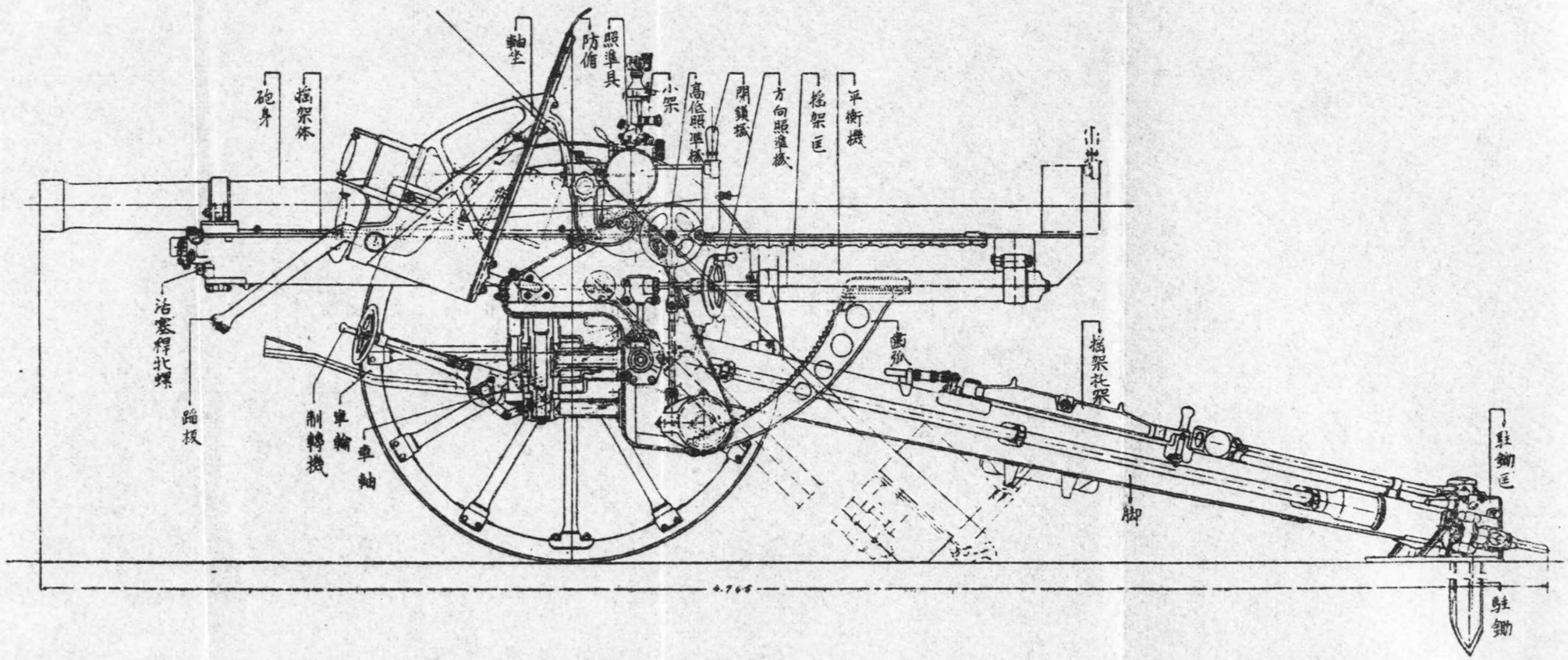
照準捉
大架側板
駐鍋
熱尼鎌
接號架
接號架副板
照準坐
防楯
踏板
軸坐
沈尼花架
沈尼花
制轉滑
坐射坐
搖桿
搖桿軸
搖桿軸孔
搖桿軸孔
搖桿軸孔

三八式野砲

附圖 第四


槓桿
抽筒子支柱
引鐵
軸樞桿槓
抽筒子
座板
鉤脱子
抽筒子支栓
槓桿
鎖栓
引鉄
扛子
安全栓
拉繩
鉤遊
嘴遊
底寒室壓擊
軸桿槓
筒子扛
子扛
抽筒子
ねば壓擊
壓擊
螺頭
ねば鐵引
ねば子扛
栓全安

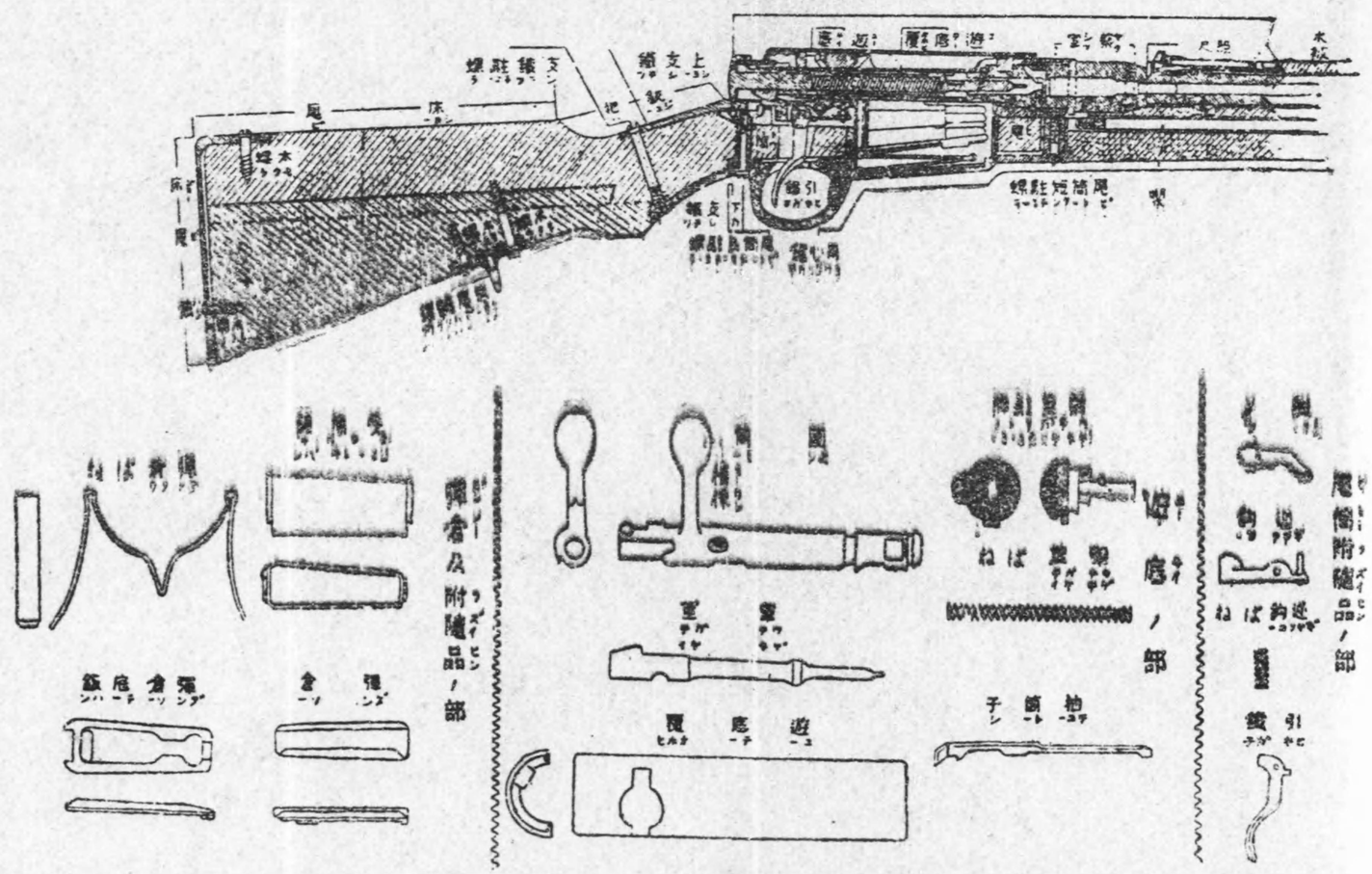
車砲体面列全側放


砲身
搖架体
軸坐
防俯
照準具
小架
高低照準機
閉鎖機
方向照準機
搖架匡
平衡機
止鞍
治塞桿北螺
踏板
制轉機
車輪
車軸
齒弧
搖架托架
脚
駐鋤匡
駐鋤
4.768

附圖 第六

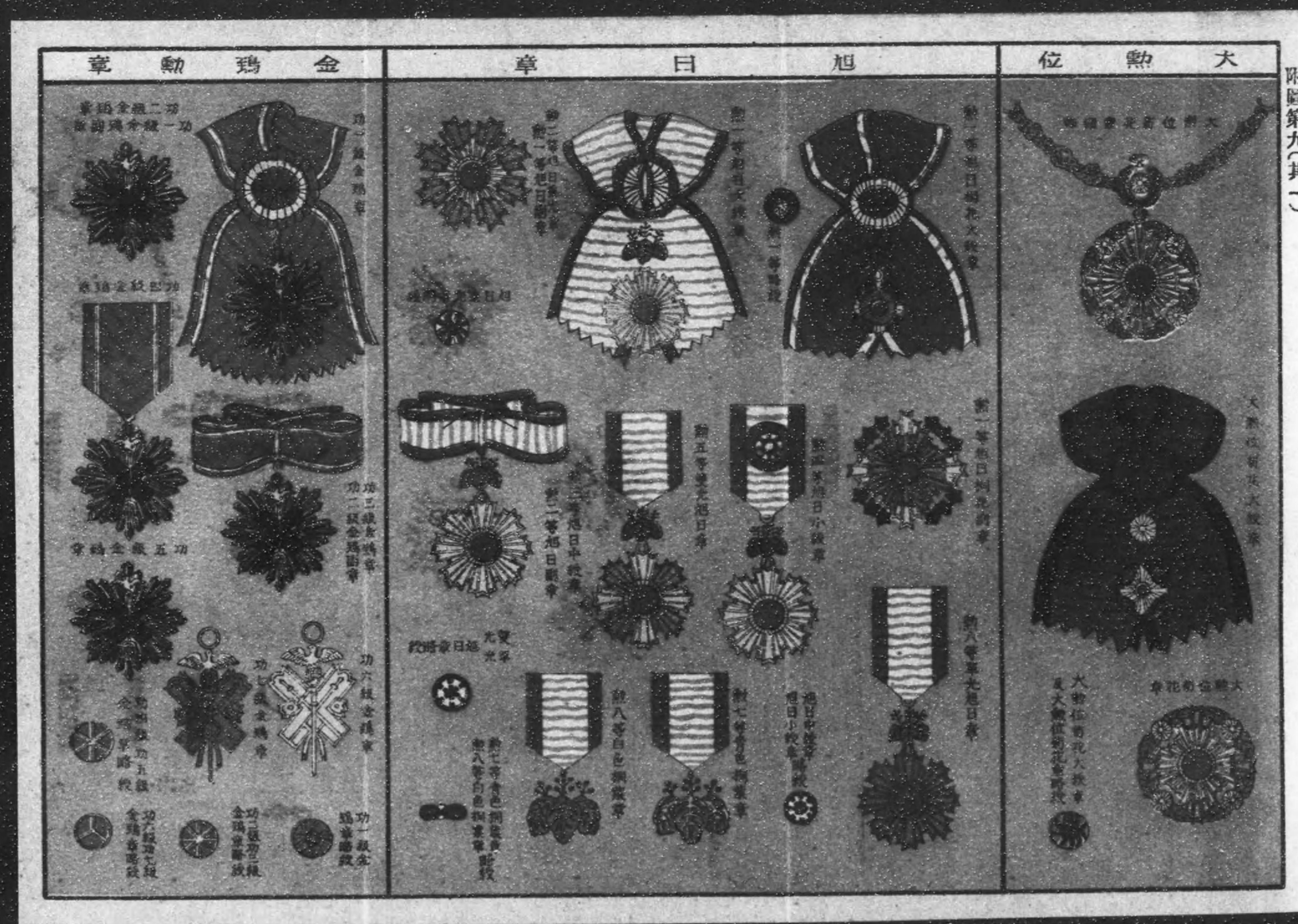
A B
牡螺
握把
槓桿
握把軸
卷条
卷条筒
駐栓
駐桿
軸
卷条
安全板
握把
駐爪
鋼座
槓桿軸
抽筒子
安全板支栓
駐栓
擊鉄軸
擊鉄駐桿
卷条
擊鉄駐桿
抽筒子
螺体
門子
門子軸
象限儀座
駐栓室
槓桿駐栓
安全板
擊子室對槓
擊子鉄
擊鉄軸

三八式騎銃並附屬品分解圖



其一
頂革
額革
咽革
首革
小勒銜
小勒環
大勒銜
大勒環
鞍囊
前橋
後橋
服馬鞍
鐙革
鞍下毛布
束素革紐
鞦
鞦革
鞦革控革
緩喉革
平長革
袴革
袴革約革
其二
頂革
額革
咽革
頰革
前馬頭上革
束素革紐
鞦
鞦革
鞦革控革
鞦革約革
鞦革釘革
鞍下毛布
水壺
鞍馬鞍
鞍馬銜
鞍馬環
鞍馬覆
鞍馬銜
鞍馬銜
鞍馬銜
鞍馬銜

附圖第九（其一）



大勳位

大勳位菊花章頸飾

大勳位菊花大綬章

大勳位菊花章

大勳位菊花大綬章及大勳位菊花章略綬

旭日章

勲一等旭日桐花大綬章

勲一等旭日大綬章

勲一等略綬

勲二等旭日重光章
勲一等旭日副章

旭日重光章略綬

勲一等旭日桐花副章

勲四等旭日小綬章

勲五等雙光旭日章

勲三等旭日中綬章
勲二等旭日副章

雙光旭日章略綬

勲八等單光旭日章

旭日中綬章
旭日小綬章略綬

勲七等青色桐葉章

勲八等白色桐葉章

勲七等青色桐葉章略綬
勲八等白色桐葉章略綬

金鵄勳章

功二級金鵄章
功一級金鵄副章

功一級金鵄章

功級金鵄章略綬

功三級金鵄章
功二級金鵄副章

功五級金鵄章

功六級金鵄章

功七級金鵄章

勲四級功五級金鵄章略綬

功一級金鵄章略綬

功二級功三級金鵄章略綬

功六級功七級金鵄章略綬

瑞寶章

勲一等瑞寶章
勲二等瑞寶章
勲三等瑞寶章
勲四等瑞寶章
勲五等瑞寶章
勲六等瑞寶章
勲七等瑞寶章
勲八等瑞寶章

寶冠章

勲一等寶冠章
勲二等寶冠章
勲三等寶冠章
勲四等寶冠章
勲五等寶冠章
六等以下略ス

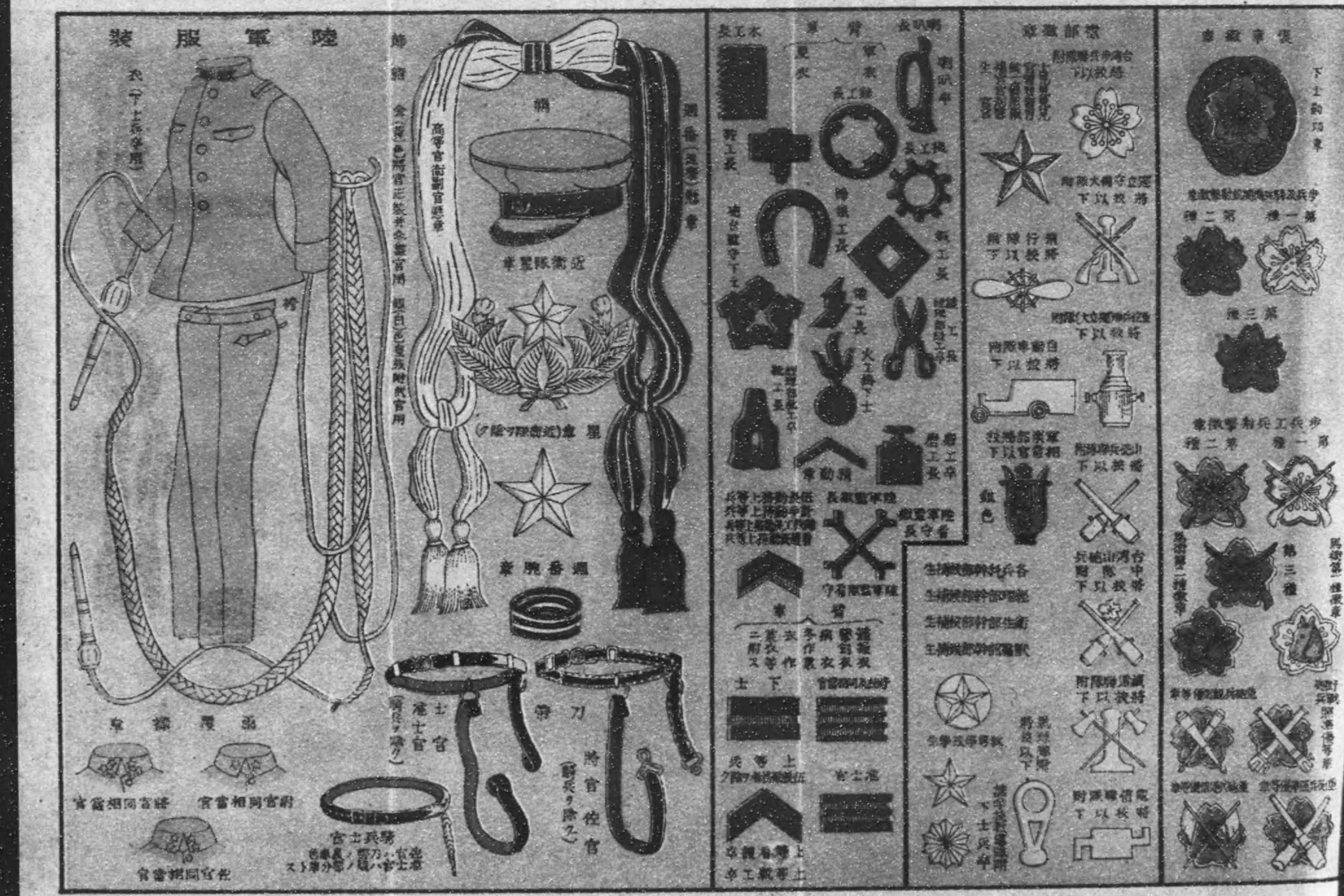
記章

明治七年役軍記章
明治二十七八年役軍記章
明治三十七八年役軍記章
明治三十七八年役軍記章
大正三年乃至九年役軍記章
東京府紀念章
人種二十三年祝典之章
韓國併合紀念章
大禮紀念章
赤十字社々員徽章

徽章

元帥徽章
皇族徽章
勲一等
勲二等
勲三等
勲四等
勲五等
勲六等
勲七等
勲八等
憲
戰捷記章
傷痍記章
甲種
乙種

徽章
記章
寶冠章
瑞寶章
元帥徽章
侍從武官徽章
陸軍士官學校卒業者徽章
陸軍士官學校卒業者徽章
陸軍士官學校卒業者徽章
陸軍士官學校卒業者徽章
憲兵徽章
憲
傷痍記章
戰傷
戰傷
戰捷記章
甲種
乙種
書籍發布記念章
明治七年從軍記章
明治二十七八年從軍記章
明治三十三年從軍記章
明治三十七八年從軍記章
大正三年乃至九年從軍記章
大婚二十五年祝典之章
韓國併合紀念章
大禮記念章
赤十字社々員徽章
勳一等寶冠章
勳二等寶冠章
勳一等寶冠章
勳三等寶冠章
勳四等寶冠章
勳五等寶冠章
六等以下略ス
勳一等瑞寶章
勳二等瑞寶章
勳三等瑞寶章
勳四等瑞寶章
勳五等瑞寶章
勳六等瑞寶章
勳七等瑞寶章
勳八等瑞寶章
勳五等六等瑞寶勲章


陸軍服裝
帽
近衛隊軍章
將官徒官
騎兵士官
將官同相當官
佐官同相當官
帽章
將官
士官
刀
將官徒官
(將官ヲ除ク)
(將官ヲ除ク)
襟章
將官
士官
上等兵
上等軍曹
上等軍曹
上等軍曹

陸軍服裝
衣（下士兵卒用）
袴
帽
近衛隊帽章
週番（巡察）勲章
將官佐官
士官
兵卒
帶
帽章（近衛隊ノ除ク）
週番腕章
帶
帽章
將官同相當官
佐官同相當官
將官同相當官
佐官同相當官
將官佐官
（勲章ノ除ク）
士官
准士官
（勲章ノ除ク）
兵卒
（勲章ノ除ク）
士官
准士官
兵卒
（勲章ノ除ク）
將官佐官
（勲章ノ除ク）
士官
准士官
兵卒
（勲章ノ除ク）
士官
准士官
兵卒
（勲章ノ除ク）
士官
准士官
兵卒

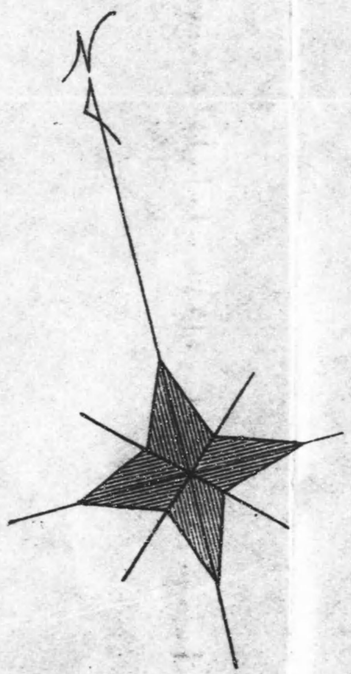
附圖第十

旭川齋成地要圖

（昭和八年改製）

旭川衞戍地要圖

（昭和八年改製）



1
25 000

常盤岡
谷中
太古岡
三角台
大和台
千代山
若草台
北小森
水道貯水地
曙台
高台
見田山
春光台
荻岡
清水谷
三日月山
射撃場
火
官舎
僧行社
文
兵器部
7D
7K
7A
7T
7P
28.i
27.i
26.i
旭病
旭利
橋月秋
石
兵練場
六
線
谷
ノ下
春ノ下
三ノ宮
狩
町
十
九
八
七
六
五
四
三
二
一

六號
八線道路
常盤岡
谷中
ケ鼻
太古岡
三角台
大和台
千代山
水道貯水地
若草台
北ノ森
曙台
田見山
高台
春光台
萩岡
清水谷
三日月山
射撃場
火
官舎
僧行社
兵器部
7D
7K
7A
7T
7P
28.i
27.i
26.i
旭刑
旭病
橋月
石
狩
六號
練兵場
大川競馬場
町
十三丁
十丁
九丁
八幡農場

射撃場
兵練場
狩川
新旭川
旭橋
常盤公園
新橋
本町
端町
錦町
門北町
亀吉島
亀吉川
杉弟三川
曙町
川別朱牛
本線
近鉄
大旭町
新町
三月山
石川競馬場
27.i
26.i
7T
7.P

射撃場
兵練場
上川競馬場
招魂社
旭橋
常盤公園
新橋
本町
北端町
錦町
門
近文
亀吉島
亀吉町
曙町
杉別川
本線
木管会社
旭ヶ岡
農場
三日月山
忠別橋
はかりきあ

亀吉島
亀吉川
曙町
文
卍
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
23
はかひさあ
忠別橋
神楽町
美瑛町
美瑛川
美瑛橋
忠別川
富良野線
神楽村
神社
上川神社
開
宮下通
南一条通
南二条通
南三条通
大正橋
神楽岡公園
至美瑛

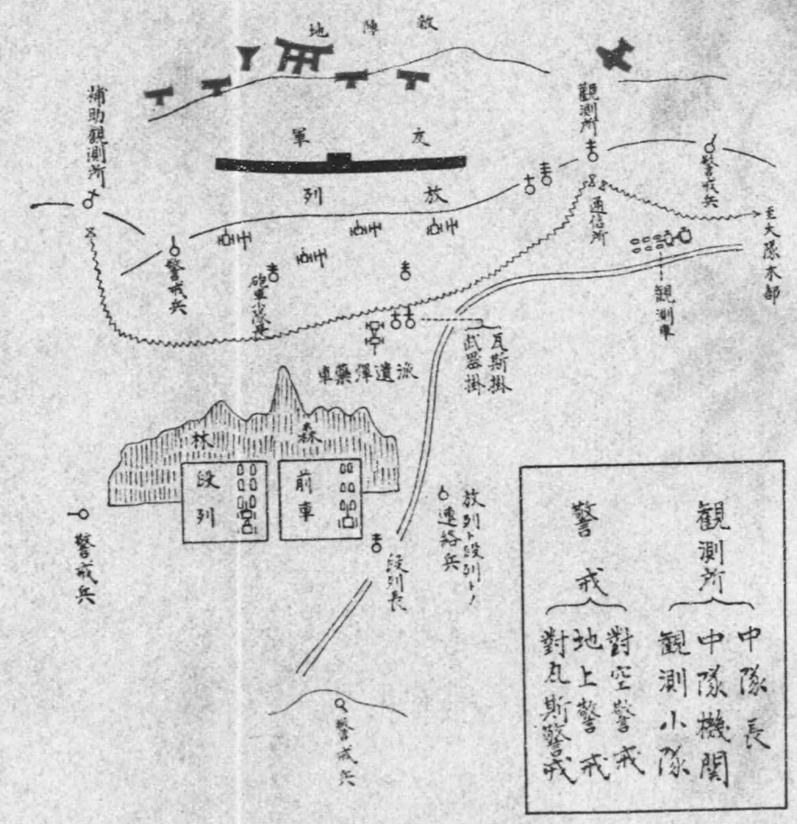
亀吉島
川吉亀
曙町
文
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
卍
はかひきあ
橋別忠
神樂町
美瑛
川
美瑛町
美瑛橋
川別忠
富良野線
神樂村
神
上川神社
開
園
公
至美瑛

有毒植物圖譜

（括弧内ハ毒成分ノ所在及中毒症狀ヲ示ス）

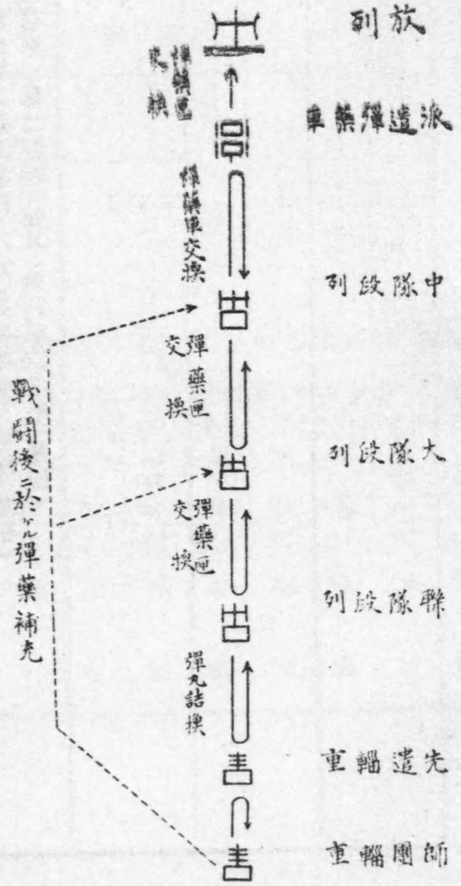
附圖第十二

砲兵中隊陣地



附圖 第十五

野砲彈藥補充要領



番号	郵便局名	開局年月日	廃止年月日	備考
1	大垣	明治13年12月1日		
2	高須	明治13年12月1日		
3	大野	明治13年12月1日		
4	郡上	明治13年12月1日		
5	高山	明治13年12月1日		
6	高山	明治13年12月1日		
7	高山	明治13年12月1日		
8	高山	明治13年12月1日		

附表第一

陸軍常備團隊配備表

團師	團旅兵步	隊聯兵步	隊聯騎	隊聯砲野	隊聯砲山	隊大兵工	輜大重兵隊	其他ノ部
近衛 2 東京	1 東京	4 東京	3 東京	2 東京	1 東京			騎兵第一旅團、騎兵第十三、十四聯隊(習志野)高射砲第二野戰重砲兵第四旅團、野重第四聯隊(下志津)野重第八聯隊鐵道第一聯隊(千葉)鐵道第三聯隊(習志野)飛行第五聯隊(東京
第一 1 東京	3 東京	57 佐倉	3 東京	49 甲府	1 東京			騎兵第二旅團、騎兵第十五、十六聯隊(習志野)戰車第二聯隊騎砲兵大隊(習志野)野戰重砲兵第三旅團、野重第一、第七聯隊(國府台)重砲兵
第二 2 仙台	29 仙台	4 若松	16 新發田	30 高田				獨立山砲兵第一聯隊(高田)歩兵第十六聯隊第三大隊(村松)
第三 3 名古屋	6 名古屋	68 岐阜	18 豐橋	34 靜岡				騎兵第四旅團、騎兵第二十五、第二十六聯隊(豐橋)野戰重砲兵第一旅團、野重第二第三聯隊(三島)高射砲第一第一飛行團司令部、飛行第一第二聯隊(岐阜)飛行第三聯隊
第四 4 大阪	7 大阪	61 和歌山	37 大阪	70 篠山	8 大阪			
第五 5 廣島	9 廣島	21 山口	41 福山	42 濱田	11 廣島			
第六 6 熊本	11 熊本	36 鹿兒島	23 都城	47 大分	13 熊本			重砲兵聯隊(深山)
第七 7 旭川	13 旭川	14 旭川	27 旭川	26 旭川	25 札幌			第二電信聯隊(廣島)
第八 8 弘前	4 弘前	16 秋田	17 秋田	31 弘前	5 青森			重砲兵大隊(函館)
第九 9 金澤	6 金澤	18 敦賀	19 敦賀	35 富山	7 金澤			騎兵第三旅團、騎兵第二十三、第二十四聯隊(盛岡)
第十 10 姫路	8 姫路	33 岡山	10 岡山	40 鳥取	39 姫路			
第十一 11 善通寺	10 善通寺	22 松山	43 德山	44 高知				
第十二 12 善通寺		63 松江						
第十二 13 札幌		25 札幌						
第十二 14 久留米	12 福岡	24 福岡	46 大村	48 久留米	2 水戸			獨立山砲兵第三聯隊(久留米)重戰重砲兵第二旅團、野重第二重砲兵聯隊(下關)野砲兵大隊(佐世保)重砲兵大隊(鶴知)高射砲第四聯隊(佐賀)飛行第四聯隊、太刀洗)
第十二 15 高崎		50 松本	15 高崎	59 宇都宮	14 宇都宮			
第十二 16 宇都宮	28 宇都宮	20 京都	19 京都	38 奈良	33 津	38 奈良	37 羅南	73 羅南
第十二 17 京都	29 京都	74 成興	75 會寧	76 羅南				重砲兵大隊(舞鶴)高射砲第三聯隊(大津)飛行第三聯隊(八
第十二 18 龍山	39 龍山	77 平壤	78 平壤	79 龍山	80 大邱			高射砲第五大隊、羅津)
								高射砲第六大隊(平壤)重砲兵大隊(馬山)「朝鮮軍」第二飛行團司令部、飛行第六聯隊(平壤)飛行第九

帝備團隊配備表

野砲聯隊	山砲聯隊	工兵大隊	輜重兵隊	其他部隊
1		1	1	騎兵第一旅團、騎兵第十三、十四聯隊(習志野)高射砲第二聯隊(國府台)野戰重砲兵第四旅團、野重第四聯隊(下志津)野重第八聯隊(東京)
東京		東京	東京	鐵道第一聯隊(千葉)鐵道第三聯隊(習志野)飛行第五聯隊(立川 氣球隊(千葉)
1		1	1	騎兵第二旅團、騎兵第十五、十六聯隊(習志野)戰車第二聯隊(習志野)
				騎砲兵大隊(習志野)
2		2	2	野戰重砲兵第三旅團、野重第一、第七聯隊(國府台)重砲兵聯隊(横須賀)
				獨立山砲兵第一聯隊(高田)
				歩兵第十六聯隊第三大隊(村松)
3		3	3	騎兵第四旅團、騎兵第二十五、第二十六聯隊、豐橋)
				野戰重砲兵第一旅團、野重第二第三聯隊(三島)高射砲第一聯隊(濱松)
				第一飛行團司令部、飛行第一第二聯隊(岐阜)飛行第三聯隊(濱松)
4	信太山	4 高槻	4	重砲兵聯隊(深山)
5		5	5	第二電信聯隊(廣島)
6		6	6	
7		7	7	重砲兵大隊(函館)
8		8 盛岡	8	騎兵第三旅團、騎兵第二十三、第二十四聯隊(盛岡)
10		10	10	
9	11	11	11	
24		18	18	獨立山砲兵第三聯隊(久留米)重戰重砲兵第二旅團、野重第五、第六聯隊(久留米)
				重砲兵聯隊(下關)野砲兵大隊(佐世保)重砲兵大隊(鶴知)
				高射砲第四聯隊(佐賀)飛行第四聯隊、太刀洗)
20		14	14	
22		16	16	重砲兵大隊(舞鶴)高射砲第三聯隊(大津)飛行第三聯隊(八日市)
	25	19		高射砲第五大隊、羅津)
26		20		高射砲第六大隊(平壤)重砲兵大隊(馬山)
				「朝鮮軍」第二飛行團司令部、飛行第六聯隊(平壤)飛行第九聯隊(會寧)

附表第二

下士官以下ノ軍裝並ニ馬裝一覽表

品目	着裝法
背嚢	背嚢ノ高サハ外套附着ノ場合ハ其ノ上緣ヲ襟ノ上緣ト同一線上ニ在ラシメ外套ヲ附セサル場合綴ムコトナク脛控革ハ釣金ノ上端ニ接シ釣金ハ帶革ノ褄鐶ヨリ約一ト拳ノ所ニ在ラシメ其端末
外套	着用スル時ノ外ハ卷キテ背嚢ニ附ス背嚢ヲ負ハサル時ハ卷キテ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ背嚢ニ附スル如クシ諸縛革ノ褄鐶ハ蓋毛革ニ接着スル如ク位置セシ[illegible]天幕ヲ附スル時ハ天幕ノ折リ目乘馬者ハ着用スル場合ノ外ハ卷キテ鞍尾ニ附ス　卷キ方及裝着法ハ要圖ノ如シ
携帶天幕	支柱ト略々同長ニシ屬品ヲ入レ其兩端ヲ包ム如ク卷キテ上緣ヲ外套ノ上緣ト同高ナラシムル如乘馬者ハ膝覆ノ上ニ附ス
飯盒	徒步者ハ飯盒ノ柄ヲ飯盒紐革ノ下方ニ緊着シ背嚢ニ附ス　乘馬者ハ旅嚢ノ右ニ收ム
水筒	銃ヲ負ヒ又ハ拳銃ヲ携行スル者衛生部、獸醫部及喇叭長、喇叭手ニシテ乘馬スル者ハ右肩ヨリ左乘馬水筒ハ右肩ヨリ左脇ニ懸クルモノトス、帶革ノ下ニ裝シ栓ノ上端ヲ帶革ノ下端ニ在ラシム
背負袋	所持スル者右肩ヨリ左脇ニ懸ク
刀（屬品共）	衣若ハ外套ノ上ニ佩ヒ梯形鐶ヲ刺留ニ釣シ徒步ノトキハ鐶ヲ釣紐ニ懸ケ乘馬ノトキハ之ニ懸ケ
銃劍（屬品共）	帶革ノ端ヲ前方ヨリ劍留ニ通シ劍差ヲ劍留ニ接シ帶革ヲ水平ニ佩ヒ褄鐶ヲ第四、第五釦ノ中央
拳銃（彈藥盒共）	水筒（双眼鏡ヲ所持スル者ハ双眼鏡）ノ上ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ク
双眼鏡	水筒ノ上ニ右肩ヨリ左脇ニ懸ケ水筒ノ後方ニ佩フ
圖嚢	右腰ニ垂下ス但シ肩ニ懸クルモノニ在リテハ最後ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ其ノ懸ケ革ハ帶革ノ上
醫療嚢（繃帶嚢）馬療嚢	水筒ノ上ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ背嚢ノ前紐革ハ帶懸革ノ上方ニ在ラシム
喇叭	砲兵操典附錄第十六ニ據ル
携帶蹄鐵工具	水筒ノ上ニ右肩ヨリ左脇ニ懸ク（乘馬水筒ノ場合ハ之ニ反ス）
乘輓馬具	馬術教範、取法教範、馬事提要ニ據ル
膝覆	携帶天幕ト略々同長ニ疊ミ鞍尾ノ携帶天幕ノ上ニ重ネ縛着ス
野繫韁	頭絡ニ近キ部分ヲ一回結ヒタル後編ムコトナク端末ヲ鞍嚢縛革ニ通シ殘部ヲ丸ク編ムモノト

一、冬季以外ハ乘馬者ノミ手袋ヲ用フ
二、士官候補生幹部候補生ノ服裝ハ其ノ階級ニ應スル下士官兵ニ又獸醫部幹部候補生ハ蹄鐵工長ニ準ス
三、軍隊手帳ハ上衣左方ノ物入ニ收メ認識標及繃帶包ハ動員時及特ニ命令アル時ノ外携帶セス
四、鞍嚢旅嚢背嚢背負袋ノ入組品左ノ如シ

區分	將校乘馬				下士官以下乘馬服			
品目	鞍嚢		旅嚢		鞍嚢		旅嚢	
	右	左	右	左	右	左	右	左
携帶口糧	乙 一日分		其他		乙 甲 鑵肉食鹽		乙	
被服手入具一組					○		○	
日用品若干					○		○	

下ノ軍裝並ニ馬裝一覽表

裝	法
	場合ハ其ノ上緣ヲ襟ノ上緣ト同一線上ニ在ラシメ外套ヲ附セサル場合ハ其上緣ヲ肩ノ高サト略々同高ナラシメ前紐革ハ金ノ上端ニ接シ釣金ハ帶革ノ褄鐶ヨリ約一ト拳ノ所ニ在ラシメ其端末ヲ帶革外ニ出シ遊鐶革ヲ釣金ノ內ニス
	背嚢ニ附ス背嚢ヲ負ハサル時ハ卷キテ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ背嚢ニ附スル時ハ其兩端ハ背嚢ノ底部ヨリ指一本上方ニ位置ハ蓋毛革ニ接着スル如ク位置セシ[illegible]天幕ヲ附スル時ハ天幕ノ折リ目ト一致セシム革條ノ端末ハ卷カスシテ內部ニ挿入ス
	外ハ卷キテ鞍尾ニ附ス　卷キ方及裝着法ハ要圖ノ如シ
	ヲ入レ其兩端ヲ包ム如ク卷キテ上緣ヲ外套ノ上緣ト同高ナラシムル如ク外套ノ後方ニシテ背嚢ニ裝着ス
	紐革ノ下方ニ緊着シ背嚢ニ附ス　乘馬者ハ旅嚢ノ右ニ收ム
	スル者衞生部、獸醫部及喇叭長、喇叭手ニシテ乘馬スル者ハ右肩ヨリ左脇ニ懸ケ醫他ノ者ハ之ニ反ス　但シ徒步者ト雖モ
	ニ懸クルモノトス、帶革ノ下ニ裝シ栓ノ上端ヲ帶革ノ下端ニ在ラシムル如クス
	ニ懸ク
	彤鐶ヲ刺留ニ釣シ徒步ノトキハ鐶ヲ釣紐ニ懸ケ乘馬ノトキハ之ニ懸ケス
	ニ通シ劍差ヲ劍留ニ接シ帶革ヲ水平ニ佩ヒ褄鐶ヲ第四、第五釦ノ中央ニス　遊鐶革ハ背嚢釣金ノ內側ニ位置セシム
	者ハ双眼鏡)ノ上ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ク
	ニ懸ケ水筒ノ後方ニ佩フ
	クルモノニ在リテハ最後ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ其ノ懸ケ革ハ帶革ノ上ニ在ラシム
	ニ懸ケ背嚢ノ前紐革ハ帶懸革ノ上方ニ在ラシム
	ル
	ニ懸ク(乘馬水筒ノ場合ハ之ニ反ス)
	提要ニ據ル
	ミ鞍尾ノ携帶天幕ノ上ニ重ネ縛着ス
	ヒタル後編ムコトナク端末ヲ鞍嚢縛革ニ通シ殘部ヲ丸ク編ムモノトス　(要圖參照)
	スル下士官兵ニ又獸醫部幹部候補生ハ蹄鐵工長ニ準ス
	帶包ハ動員時及特ニ命令アル時ノ外携帶セス

| 裝 | 乘馬 | | |

區分	將校	乘馬	下士官以下乘馬	服
嚢	右腰ニ垂下ス但シ肩ニ懸クルモノニ在リテハ最後ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ其ノ懸ケ革ハ帶革ノ上			
醫療嚢（繃帶嚢）馬療嚢	水筒ノ上ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ背嚢ノ前紐革ハ帶懸革ノ上方ニ在ラシム			
喇叭	砲兵操典附錄第十六ニ據ル			
携帶蹄鐵工具	水筒ノ上ニ右肩ヨリ左脇ニ懸ク（乘馬水筒ノ場合ハ之ニ反ス）			
乘輓馬具	馬術教範、取法教範、馬事提要ニ據ル			
膝覆	携帶天幕ト略々同長ニ疊ミ鞍尾ノ携帶天幕ノ上ニ重ネ縛着ス			
野繫轡	頭絡ニ近キ部分ヲ一回結ヒタル後編ムコトナク端末ヲ鞍嚢縛革ニ通シ殘部ヲ丸ク編ムモノトス			

一、冬季以外ハ乘馬者ノミ手袋ヲ用フ
二、士官候補生幹部候補生ノ服裝ハ其ノ階級ニ應スル下士官兵ニ又獸醫部幹部候補生ハ蹄鐵工長ニ準ス
三、軍隊手帳ハ上衣左方ノ物入ニ收メ認識標及繃帶包ハ動員時及特ニ命令アル時ノ外携帶セス
四、鞍嚢旅嚢背嚢背負袋ノ入組品左ノ如シ

品目	鞍嚢 右	鞍嚢 左	旅嚢 右	旅嚢 左	鞍嚢 右	鞍嚢 左	旅嚢 右	旅嚢 左	鞍嚢 右
携帶口糧	乙 一日分		其他		乙 甲 鑵肉食鹽				乙
被服手入具一組					○	○			○
日用品若干					○	○			○
手袋									
靴下					一	一			一
襦袢袴下一組							○	○	
飯盒	○						○	○	
携帶馬糧（麥二升五合）			半量	半量			半量	半量	
馬手入具（乘馬一組、輓馬一駢一組 鑣櫛、鐵篦、雜巾各一）									
麥袋（乘馬一 駿馬二）		一							
蹄鐵半裝（釘共 前後各一ケ）			○	○			前一 後一		
野繫轡二本							一	一	
小仲間（下士官以下 乘一、駿二）									
水嚢							○	○	
野繫銜一									

備考

一 携帶口糧ハ（甲（精米六合）一日分、乙（乾麵麭百八十匁）一日分、鑵肉四十匁（鹽六匁））
二 携帶馬糧ハ麥二升五合
三 被服手入具ハ一組小刀一個、糸卷（糸ハ茶褐、白ノ二種）釘若干本トス
四 日用品若干ハ手拭、齒磨揚子、紙、石鹼、箸、（箸袋共）トシ風呂敷ヲ用フルコトヲ得

其一 砲手軍裝

其二 砲手軍裝（徒歩）

其三 背嚢著裝法

其七、獨乘馬裝法

懸クルモノニ代リテハ最後ニ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ其ノ上ニ懸ケ其ノ上ニ懸ケ

脇ニ懸ケ背嚢ノ前紐革ハ帶懸革ノ上方ニ在ラシム

據ル

脇ニ懸ク（乘馬水筒ノ場合ハ之ニ反ス）

事提要ニ據ル

疊ミ鞍尾ノ携帶天幕ノ上ニ重ネ縛着ス

結ヒタル後編ムコトナク端末ヲ鞍嚢縛革ニ通シ殘部ヲ丸ク編ムモノトス（要圖參照）

應スル下士官兵ニ又獸醫部幹部候補生ハ蹄鐵工長ニ準ス

又繃帶包ハ動員時及特ニ命令アル時ノ外携帶セス

| 校乘馬下士官以下乘馬服 | | |

備考	半量	半量	半量	半量	半量
携帯馬糧（麥二升五合）					
馬手入具（乘馬一組、輓馬一駢一組）（鑣櫛、鐵篦、雑巾各一）					
麥袋（乘馬一、駮馬二）		一			
蹄鐵半装（釘共）（前後各一ケ）			○	前一 後一	
野繋轡二本					
小仲間（下士官以下乘一、駮二）					
水嚢		○		○	○
野繋銜一				一	一

備考

一 携帯口糧ハ（甲（精米六合）一日分、乙（乾麺麭百八十匁）一日分、鑵肉四十匁（鹽六匁））

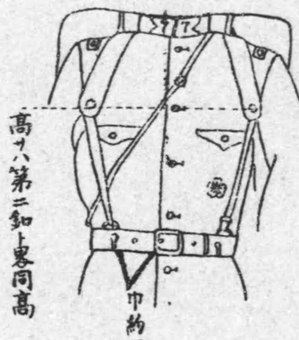
二 携帯馬糧ハ麥二升五合

三 被服手入具ハ一組小刀一個、糸卷（糸ハ茶褐、白ノ二種）釘若干本トス

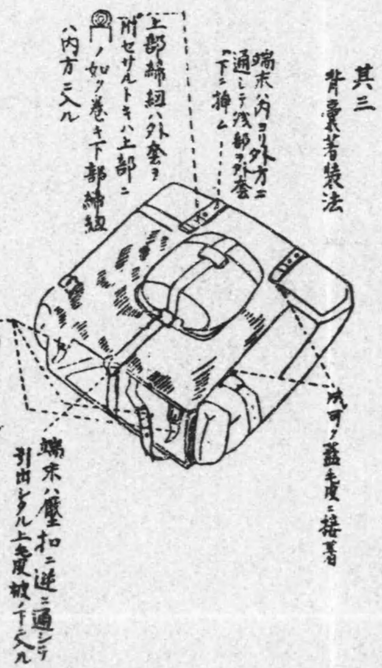
四 日用品若干ハ手拭、齒磨揚子、紙、石鹸、箸、（箸袋共）トシ風呂敷ヲ用フルコトヲ得

其一 砲手車装

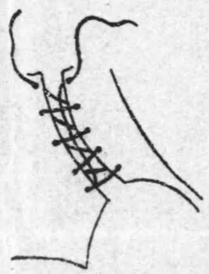
其二 砲手車装（徒歩）



其三 背嚢背装法

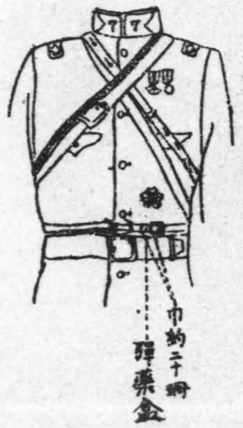


其四 水筒及卷脚袴着装法

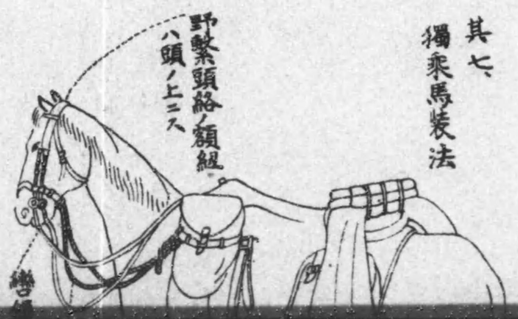


其五 分隊長軍装（背面）ノ順序ニ装着ス

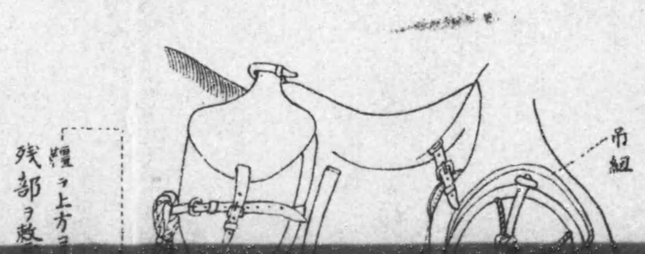
其六 分隊長軍装（乘馬）



其七、獨乘馬装法



其九、水嚢鞍嚢野繋轡ノ装着法

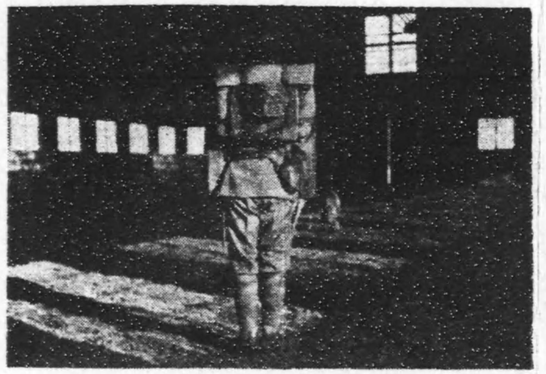


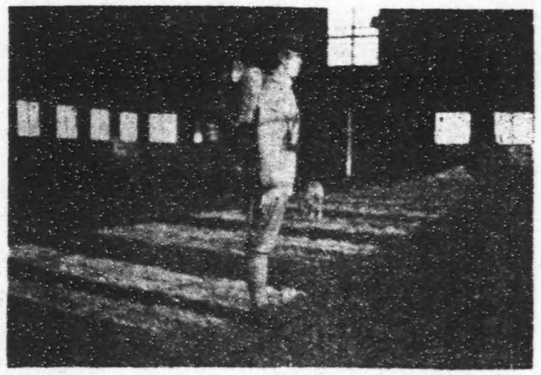
日分、乙（乾麺麭百八十匁）一日分、鑵肉四十匁（鹽六匁）〕

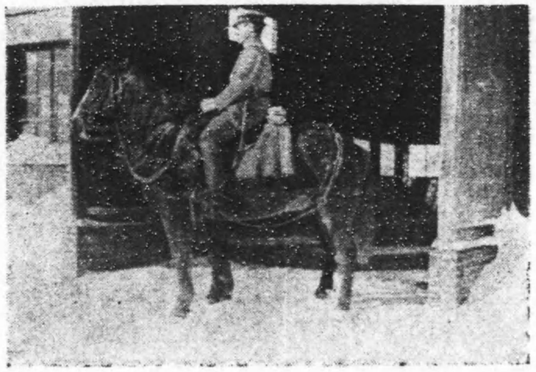
糸卷（糸ハ茶褐、白ノ二種）釘若干本トス

、紙、石鹼、箸、（箸袋共）トシ風呂敷ヲ用フルコトヲ得

| | | |







附表第三

砲車ノ軍裝

一　背嚢ヲ前車ニ積載スル法要圖ノ如シ

二　携帶天幕ハ廉アル場合ノ外結合ノマヽ適宜車輛ニ積載スルコトヲ得

三　背嚢縛革ノ轡鐶ノ位置ハ上方後端トス背嚢ヲ積載スル時ハ上被ノ中央ニ置キ縛革ノ端末ハ共ニ綱紐ノ方ニ向ハシム

四　砲車前車踏板上屬品裝着法ハ繫馬杭（鐶部ヲ右ニス）十字鍬ノ柄（刄部ヲ左ニス）ノ順序ニ前車箱ヨリ鐵桿ノ方ニ向ツテ併ヘ十字鍬鐵部（其ノ孔ニ中央縛革ヲ通シ刄部ヲ右ニシ凹部ヲ下方ニ向ク）ヲ其上ニ載ス繫馬索ハ繫馬杭ト同長トシ其ノ中央ニ卷キテ纏結シ繫馬杭及十字鍬ノ上ニ置キ縛革ヲ以テ縛着ス

五　彈藥車前車踏板上ノ諸品裝著法ハ繫馬杭ヲ除キ砲車ノ前車ニ同シ

六　彈藥車後車踏板上ノ屬品ノ裝著法ハ砲車前車ニ同シ　但シ十字鍬ヲ除キ繫馬杭ヲ對向セシム

七　砲車ニ圓匙十字鍬鐵部ノ裝著法ハ圓匙（十字鍬）ノ凹部ヲ上方（砲口）ニシ其ノ柄ハ頭部ヲ砲口ニ近ク尖部ヲ外方ニ向フル如ク砲架ニ裝著ス

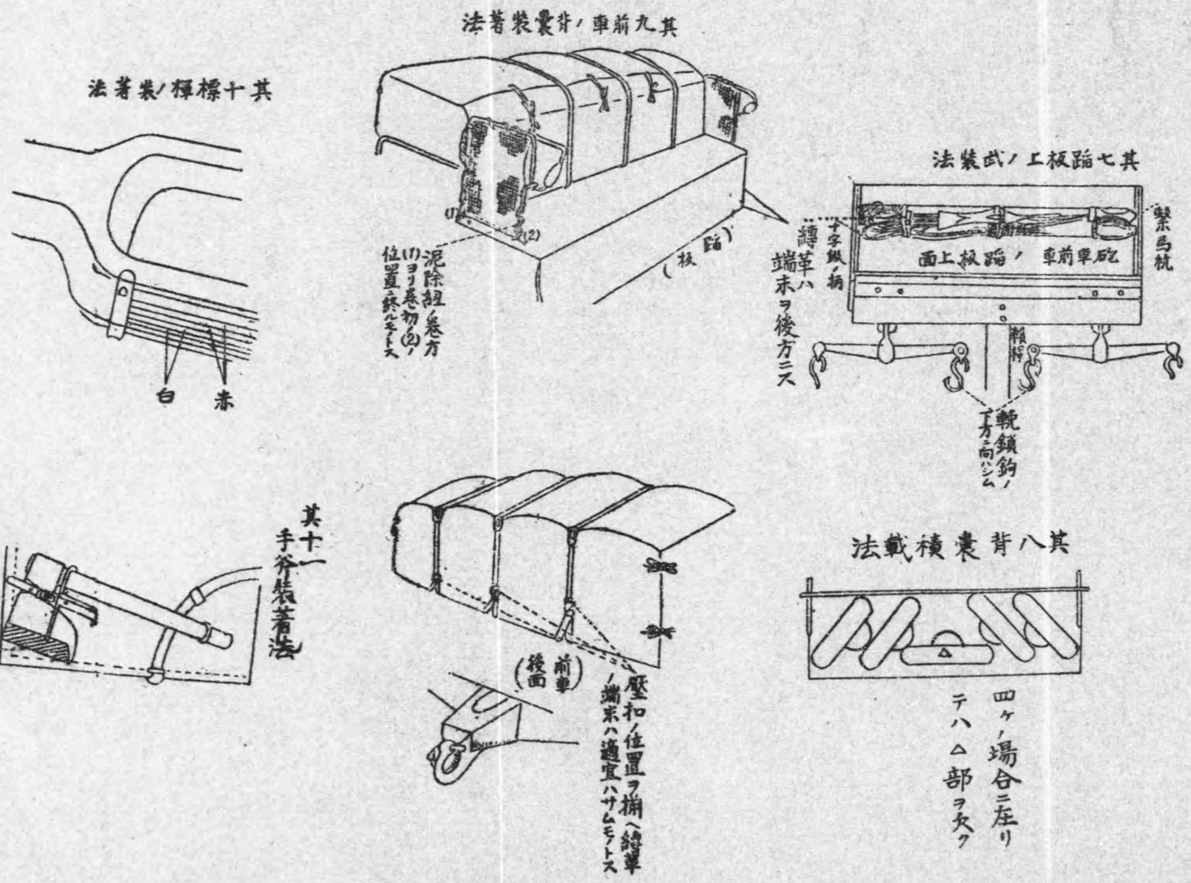
八　補助桿縛革ノ端末ハ外方ニ向ハシム

九　遊動棍ノ釣部ハ下方ニ向ハシム

十　觀兵式ニ在リテハ操典附錄第五ニ依ル　但シ表尺蓋ヲ防楯ニ裝着スルニハ砲口蓋砲尾蓋ヲ其ノ内ニ收納シ頭部ヲ外方ニ下部ノ欠凹ヲ下部ニ向クル如クス表尺補助桿ハ防楯ニ裝著セス

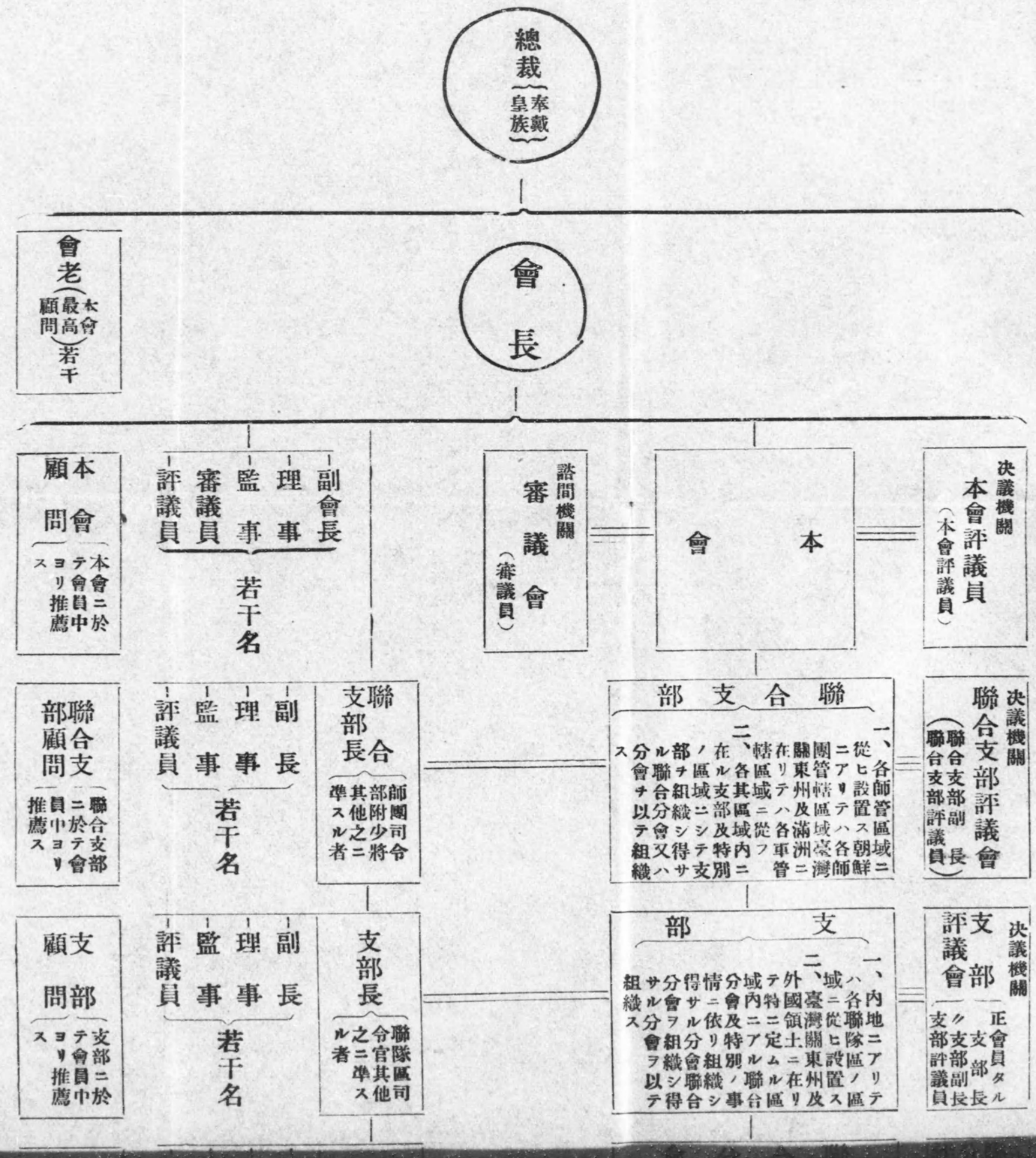
十一　陸軍服裝規定第五條第二乃至第四號ノ其他儀式ノ場合ニハ砲架蓋及諸吊鎖ヲ使用セス砲身蓋ハ前車上被ノ下ニ疊ミ込ムモノトス

十二　前項ノ場合ニ於テハ小箱裝塡品及空彈匣ヲ收入シ砲架匣裝塡品ハ收容セサルモノトス

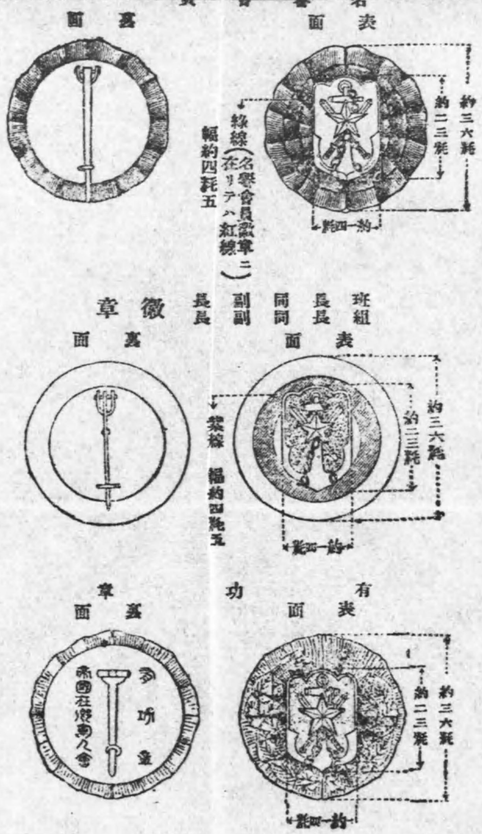


附表第四

帝國在鄉軍人會組織系統及會旗徽章一覽表



旗徽章一覽表



決議機關

支部評議會
- 正會員タル支部長
- 支部副長
- 支部評議員

聯合分會評議會
- 聯合分會長
- 同副長
- 同評議員
- 海軍班長

分會評議會
- 分會長
- 分會副長
- 分會理事
- 分會評議員

支部
- 一、内地ニアリテハ各聯隊區ノ區域ニ從ヒ設置ス
- 二、臺灣關東州及外國領土ニ在リテハ特ニ定ムル區域内ニアル聯合分會ノ情況ニ依リ特別ノ事情ヲ得サル場合ニ於テハ聯合分會ヲ以テ組織シ得サル分會ヲ以テ組織ス

聯合分會
- 一、郡若クハ之ニ準スル區域ニ從ヒ設置ス
- 工場鑛山會社等ノ各個所又ハ海外地ニアリテハ必要ニ從ヒ設置スルコトアリ
- 二、各其區域内ニ在ル分會ヲ以テ組織ス

分會
- 一、町村區域ニ從ヒ設置ス
- 工場鑛山會社等ノ各個所又ハ海外地ニ在リテハ必要ニ從ヒ設置スルコトアリ
- 二、各種區域内又ハ所屬ノ會員ヲ以テ組織ス

班
- 一、分會ハ行政區域又ハ學校通學ノ區域若クハ交通等ノ關係ニ從ヒ班ニ區分ス
- 二、各其區域内ノ會員ヲ以テ組織ス

組
- 班ハ最寄若干ノ人員ヲ以テ組ニ區分ス

支部長
- 聯隊區司令官其他之ニ準スル者

聯合分會長
- 正會員中ヨリ推薦ス

分會長
- 正會員中ヨリ推薦ス

班長
- 正會員中ヨリ推薦ス

組長
- 正會員中ヨリ推薦ス

副長
- 副長若干名

理事
- 副長若干名

監事
- 副長若干名

評議員
- 副長若干名

支部顧問
- 支部ニ於テ會員中ヨリ推薦ス

聯合分會顧問
- 聯合分會ニ於テ會員中ヨリ推薦ス

分會顧問
- 分會ニ於テ會員中ヨリ推薦ス

海軍班長
- 正會員中ヨリ推薦ス

海軍班
- 聯合分會若クハ分會ハ地方ノ情況ニ應シ必要アル場合ニ於テハ海軍出身正會員ノ爲其組織内ニ海軍班ヲ設置スルコトアリ

註記
- 直系統
- 會務統轄系統
- 業務系統

手旗現字通信原劃等ノ現示法

名稱	現示	說明及圖例
原姿		兩手ヲ垂直ニ垂ル
零原劃		右手ヲ以テ垂下ノ位置ヨリ左方ニ廻ハシ圓ヲ畫ク
第一原劃		兩手ヲ左右水平ニ出ス
第二原劃		左手ヲ垂レ右手ヲ垂直ニ擧ク但「チ」及「エ」ノ第二動ヲ畫クトキニ限リ右手ヲ垂レ左手ヲ垂直ニ擧ク
第三原劃		左手ヲ左四十五度上右手ヲ右四十五度下ニ出ス
第四原劃		右手ヲ右四十五度上左手ヲ左四十五度下ニ出ス
第五原劃		兩手ヲ兩足尖ノ方向ヨリ擧ケ頭上ニ交叉ス
第六原劃		右手ヲ右方水平ニ左手ヲ徒路ヲ經テ頭上ヨリ右方水平ニ出メ
第七原劃		右手ヲ垂直ニ擧ケ左手ヲ左方水平ニ出ス
第八原劃		左手ヲ垂レ右手ヲ右方水平ニ出ス
第九原劃		右手ヲ右方水平ニ左手ヲ右手ノ下約三十五度ノ鋭角ニ出ス
第十原劃		兩手ヲ左右各四十五度ノ仰角ニ擧ク
第十一原劃		兩手ヲ左方四十五度上ヨリ右方四十五度下ニ振リ下ロス
第十二原劃		兩手ヲ垂直ニ擧ク
第十三原劃		左手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ク
第十四原劃		右手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ク

第七原劃	右手ヲ垂直ニ擧ゲ左手ヲ左方水平ニ出ス	左方水平ニ出ス
第八原劃	左手ヲ垂レ右手ヲ右方水平ニ出ス	
第九原劃	右手ヲ右方水平ニ左手ヲ右手ノ下ニ約三十五度ノ俯角ニ出ス	
第十原劃	兩手ヲ左右各四十五度ノ仰角ニ擧ク	
第十一原劃	兩手ヲ左方四十五度上ヨリ右方四十五度下ニ振リ下ロス	
第十二原劃	兩手ヲ垂直ニ擧ク	
第十三原劃	左手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ク	
第十四原劃	右手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ク	
起信符號	兩手ヲ垂直ニ擧ケ各左右水平マテ振ルコト數回	
應信符號	兩手ヲ交々上下ニ振ルコト數回	
終信符號	第十二原劃ヲ畫ク	
解信符號	兩手ヲ垂直ニ擧ケ平行セル儘左右ニ振ルコト數回	
區切點	第十四原劃ヲ畫キ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス	
段落	第七原劃ヲ畫キ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス	
訂正符號	右手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ケ左右ニ振ルコト數回	
數字符號	第十三原劃ヲ畫キ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス	
略號符號	兩手ヲ左右下方四十五度ノ位置ニ出シ之ヲ下方ニ交叉スルコト數回受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス	
括弧	兩手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下ロス	
讀點（コンマ）	左手ヲ垂レ右手ヲ右方四十五度下ニ出ス	

備考

一 信號中ニ數字ヲ挿入セントスルトキハ數字符號ヲ以テ其前後ヲ區別スルモノトス數字符號ノ後送信スル零ヨリ第九ニ至ル各原劃ハ其原劃番號ニ組當スヘキ數字ヲ示ス但十ヲ現スニハ第十原劃ニ依ラスシテ第一原劃ト零原劃トヲ以テ現スモノトス若數字中ニ讀點ヲ挿入シタルトキハ其後ニ現ス數字ハ零以下ニ讀解スヘシ

二 數字ヲ示ス原劃ハ最モ正確ニ現示シ且各原劃間ノ區別ヲ明瞭ナラシムルコトニ特ニ注意スヘシ

三 狀況ニ依リ立姿以外ノ姿勢ヲ以テ行フコトヲ得

附表 第六

手旗現字通信片假名作爲法

片假名	組合セ順序 第一動	第二動	第三動	片假名	組合セ順序 第一動	第二動	第三動	片假名	組合セ順序 第一動	第二動	第三動
イ	／	｜		ソ	＼	／		テ	＝	／	
ロ	∟	⌉		ツ	‖	／		ア	⌉	／	
ハ	∨			子ネ	⌉	‖		サ	―	‖	
ニ	＝			ナ	―	／		キ	＝	―	
ホ	―	｜	∨	ラ	＼	⌉		ユ	⌉	―	
ヘ	＼			ム	∟	＼		メ	／	＼	
ト	｜	＼		ウ	＼	｜	⌉	ミ	＝	―	
チ	∟	｜		中	＝	‖		シ	＼	∟	
リ	‖			ノ	／			エ	⌉	／	―
ヌ	⌉	＼		オ	―	｜	／	ヒ	―	∟	
ル	／	∟		ク	／			モ	＝	∟	
ヲ	―	⌉		ヤ	⌉	＼		セ	⌉	∟	
ワ	｜	⌉		マ	⌉	＼		ス寸	―	｜	
カ	⌉	／		ケ	∟	／		ン	＼	―	
ヨ	⌉	＝		フ	⌉			｜（長音）	｜		
タ	／	＼		コ	⌉	―		゛（濁點）	／		
レ	∟			エ	―	｜	―	○（半濁點）	＼		

字號表

文字	符號	文字	符號	文字	符號	文字	符號
イ	● ●●	カ	● ●● ● ●	オ	● ●● ● ● ●	メ	●● ● ● ● ●●
ロ	● ●● ● ●●	ヨ	●● ●●	ク	● ● ● ●●	ミ	● ● ●● ● ●●
ハ	●● ● ● ●	タ	●● ●	ヤ	● ●● ●●	シ	●● ●● ● ●● ●
ニ	●● ● ●● ●	レ	●● ●● ●●	マ	●● ● ● ●●	エ	● ●● ●● ● ●
ホ	●● ● ●	ソ	●● ●● ●● ●	ケ	●● ● ●● ●●	ヒ	●● ●● ● ● ●●
ヘ	●	ツ	● ●● ●● ●	フ	●● ●● ● ●	モ	●● ● ● ●● ●
ト	● ● ●● ● ●	ネ	●● ●● ● ●●	コ	●● ●● ●● ●●	セ	● ●● ●● ●● ●
チ	● ● ●● ●	ナ	● ●● ●	エ	●● ● ●● ●● ●●	ス	●● ●● ●● ● ●●
リ	●● ●● ●	ラ	● ● ●	テ	● ●● ● ●● ●●	ン	● ●● ● ●● ●
ヌ	● ● ● ●	ム	●●	ア	●● ●● ● ●● ●●	゛濁點	● ●
ル	●● ● ●● ●● ●	ウ	● ● ●●	サ	●● ● ●● ● ●●	゜半濁點	● ● ●● ●● ●
ヲ	● ●● ●● ●●	ヰ	● ●● ● ● ●●	キ	●● ● ●● ● ●		
ワ	●● ● ●●	ノ	● ● ●● ●●	ユ	●● ● ● ●● ●●		

數字	符號	略符號	備考
一	● ●● ●● ●● ●●	● ●●	ノミ使用スルコトヲ得 數字略符號ハ他ノ符號ト混同スル虞ナキトキ
二	● ● ●● ●● ●●	● ● ●●	
三	● ● ● ●● ●●	● ● ● ●●	
四	● ● ● ● ●●	● ● ● ● ●●	
五	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●	
六	●● ● ● ● ●	●● ● ● ● ●	
七	●● ●● ● ● ●	●● ● ● ●	
八	●● ●● ●● ● ●	●● ● ●	
九	●● ●● ●● ●● ●	●● ●	
〇	●● ●● ●● ●● ●●	●●	

記號		符號
長音	ー	● ●● ●● ● ●●
區切點	、	● ● ● ● ● ● ●
段落	｜	● ●● ● ●● ● ●
括弧	（）	●● ● ●● ●● ● ●●

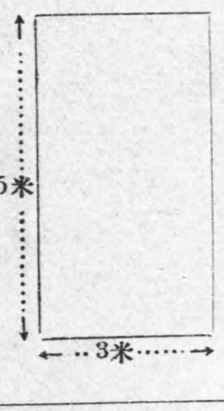
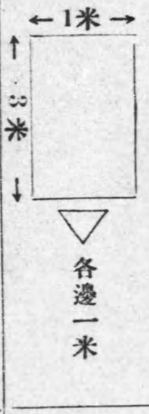
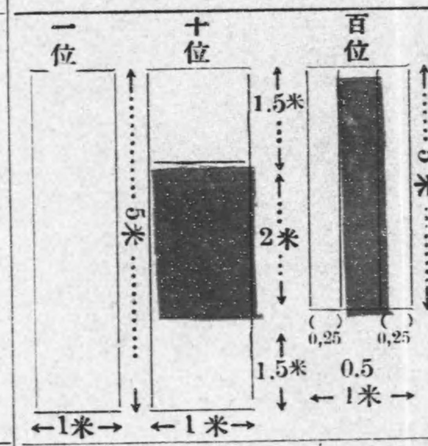
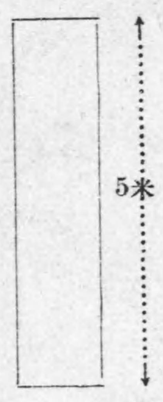
ロ	● ●●● ● ●●●	ヨ	●●● ●●●	ク	● ● ● ●●●	ミ	● ● ●●● ● ●●●
ハ	●●● ● ● ●	タ	●●● ●	ヤ	● ●●● ●●●	シ	●●● ●●● ● ●●● ●
ニ	●●● ● ●●● ●	レ	●●● ●●● ●●●	マ	●●● ● ● ●●●	エ	● ●●● ●●● ● ●
ホ	●●● ● ●	ソ	●●● ●●● ●●● ●	ケ	●●● ● ●●● ●●●	ヒ	●●● ●●● ● ● ●●●
ヘ	●	ツ	● ●●● ●●● ●	フ	●●● ●●● ● ●	モ	●●● ● ● ●●● ●
ト	● ● ●●● ● ●	ネ	●●● ●●● ● ●●●	コ	●●● ●●● ●●● ●●●	セ	● ●●● ●●● ●●● ●
チ	● ● ●●● ●	ナ	● ●●● ●	エ	●●● ● ●●● ●●● ●●●	ス	●●● ●●● ●●● ● ●●●
リ	●●● ●●● ●	ラ	● ● ●	テ	● ●●● ● ●●● ●●●	ン	● ●●● ● ●●● ●
ヌ	● ● ● ●	ム	●●●	ア	●●● ●●● ● ●●● ●●●	濁點 ··	● ●
ル	●●● ● ●●● ●●● ●	ウ	● ● ●●●	サ	●●● ● ●●● ● ●●●	半濁點 ○	● ● ●●● ●●● ●
ヲ	● ●●● ●●● ●●●	キ	● ●●● ● ● ●●●	キ	●●● ● ●●● ● ●		
ワ	●●● ● ●●●	ノ	● ● ●●● ●●●	ユ	●●● ● ● ●●● ●●●		

數字	符號	略符號	備考
一	● ●●● ●●● ●●● ●●●	● ●●●	數字略符號ハ他ノ符號ト混同スル虞ナキトキノミ使用スルコトヲ得
二	● ● ●●● ●●● ●●●	● ● ●●●	
三	● ● ● ●●● ●●●	● ● ● ●●●	
四	● ● ● ● ●●●	● ● ● ● ●●●	
五	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●	
六	●●● ● ● ● ●	●●● ● ● ● ●	
七	●●● ●●● ● ● ●	●●● ● ● ●	
八	●●● ●●● ●●● ● ●	●●● ● ●	
九	●●● ●●● ●●● ●●● ●	●●● ●	
〇	●●● ●●● ●●● ●●● ●●●	●●●	

記號		符號
長音	ー	● ●●● ●●● ● ●●●
區切點	、	● ● ● ● ● ●
段落	｜＿	● ●●● ● ●●● ● ●
括弧	（）	●●● ● ●●● ●●● ● ●●●

附表第八

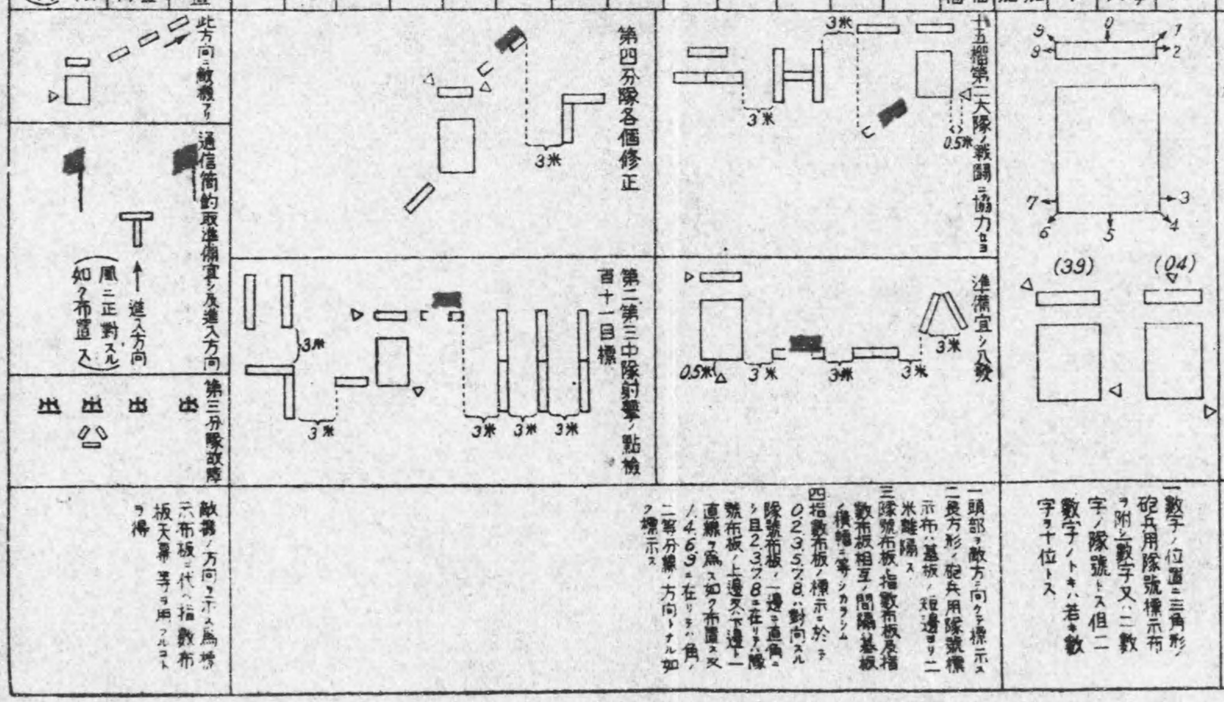
數字布板及標示布板ノ型式ノ一例

區分	型式	摘要
板布號隊 基板		一 部隊號及對空通信所ヲ標示スルモノトス 二 積雪地ニ在リテハ赤色ノモノヲ用フ 三 基板一枚、砲兵用隊號標示布長方形一枚、三角形二枚ヲ一組トス
板布號隊 用兵砲隊布示標號		
板布數字 板布數指		一 隊號布板ト併用シテ數字ヲ示シ數字ニ意味ヲ與ヘテ通信スルモノトス 二 積雪地ニ在リテハ赤(白)ヲ白(赤)ト爲シタルモノヲ用フ 三 各一枚ヲ以テ一組トス
板布示標		一 積雪地ニ在リテハ赤色ノモノヲ用フ 二 各中隊三枚、聯(大)隊本部十枚ヲ携行スルモノトス

附表第九

數字布板及標示布板ノ標示法

信號	意味	標示法	摘要
	方向 後方ニ於テ方向附與		
	方向 前方ニ於テ方向附與		
	標示		
	故障砲車		
	十加 又ハ十五加		
	十五榴 又ハ二十四榴		
	第一		
	第二		
	第三		
	0		
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	通信簡釣取位置		
	釣取準備宜シ及進入方向		
	警報用 矢方向ニ敵機アリ 敵機ノ方向ニ指向ス		



一數字ノ位置ニ三角形ノ砲兵用隊號標示布ヲ附シ數字又ハ二數字ノ隊號トス但二數字ノトキハ若キ數字ヲ十位トス

一頭部ヲ敵方ニ向ケテ標示ス

二長方形ノ砲兵用隊號標示布ハ基板ノ短邊ヨリ二米離隔ス

三隊號布板ト指數布板及指數布板相互ノ間隔基板ノ積幅ニ等シカラシム

四指數布板ノ標示ニ於テ0,2,3,5,7,8ハ對向スル隊號布板ノ一邊ニ直角ニシテ且2,3,7,8ニ在リテハ隊號布板ノ上邊及下邊ト一直線ヲ爲ス如ク布置ス又ノ4,6,9ニ在リテハ角ノ二等分線ト方向トナル如ク標示ス

敵機ノ方向ヲ示ス爲標示布板ニ代ヘ指數布板天幕等ヲ用フルコトヲ得

附表 第十

野戰砲兵用身振信號ノ一例

一、一般用

番號	信號ノ意味	信號	摘要
1	起信	(1)手旗(現字)ノ起信 (2)拍手ヲナス	
2	句切、終信、應信、了解、宜シ	片手ヲ高ク擧ク	
3	取消、消信、止メ、未完了、信號繰リ返セ	額前ニテ片手ヲ小サク左右ニ振ル	
4	知ラセ、報告セヨ……セシヤ、……ヨキヤ	片手ヲ平ニ當テ物ヲ聞ク眞似ヲナス	
5	右(左)、右(左)側方、左(左)前(上、後)方、前(上、後)方	片手ヲ其方向(絶對方向)ニ出ス	刀旗等ヲ併用スルコトアリ
6	右(左)ニ寄レ	右(左)掌ヲ寄スル方ニ向ケ急速ニ振ル	
7	準備	掌ヲ前ニシ兩手ヲ高ク擧ク	
8	搜索セヨ、監視セヨ、警戒セヨ	兩拳ヲ兩眼ニ當テ頭ヲ左右ニ廻シ眼鏡ニテ搜索スル眞似ヲナス	
9	疎開セヨ(舊ノ隊形ニ復セ)	間隔開閉ノ記號ヲナス	對空行動等ニ於テ使用ス
10	瓦斯アリ(或ハ裝面セヨ)	片手ノ掌ヲ以テ顏ノ廻リヲ撫テ廻ス	
11	瓦斯ナシ(或ハ脫面セヨ)	10ノ信號ニ次テ3ノ信號ヲナス	
12	完全防護セヨ	10ノ信號ニ次テ片手又ハ兩手ヲ以テ上體及下肢ヲ撫テ廻ス	馬ノ場合ニハ兩拳ヲ以テ馬ノ步行ノ眞似ヲナシ次テ上記ノ信號ヲナス
13	半防護セヨ	10ノ信號ニ次テ片手又ハ兩手ヲ以テ下肢ヲ撫テ廻ス	
14	敵飛行機	兩拳ヲ側方ニ出シ馬ノ飛フ眞似ヲナス	
15	敵機甲部隊(敵戰車)	兩手ヲ以テ自動車ノ操縱轉把ヲ廻轉スル眞似ヲナス	
16	射擊セヨ	火砲、右手ヲテ拉繩ヲ引ク眞似ヲナス騎(小)銃据銃射擊ノ眞似ヲナス	
17	肉迫攻擊班(爲迫攻擊セヨ)	銃劍ニテ突ク眞似ヲナス	
18	指揮官(分隊以上)	片手ニテ頭ヲ數回叩ク	
19	小隊(長)	小隊、兩手ヲ體ノ側方ニ(小ノ字形)ノ如ク擧ク小隊長ヲ示スニハ前記ノ信號ヲ次テノ信號ヲナス	
20	分隊(長)	分隊、兩手ヲ頭上ニ(分ノ字形)ノ如ク擧ク、外19ニ準ス	
21	段列(長)	兩ヲ以テ體ノ前方ニ(彈形)ヲ描ク外19ニ準ス	
22	集レ、來レ、前ヘ(前進)	(1)前進ノ記號ヲナス (2)片手ニテ招ク	
23	彈藥ヲ補充セヨ	所在ノ物料ヲ肩ニ載セ步ク眞似ヲナス	彈種ヲ示ス要アルトキハ本信號ニ次テ射擊用中ノ彈種信號ヲ準用ス
24	前車(駄馬)前ヘ	兩手ヲ以テ體ノ前方ニ圓ヲ描キ次テ22ノ信號ヲナス	
25	右(左)前車掛ケ右(左)馬ヲ繫ケ	放列布置ト同樣ノ記號ヲナス	
26	馬ニ駄セ(馬ヨリ卸セ)	兩手ヲ以テ物ヲ持チ上クル(抱ヘ卸ス)眞似ヲナス右(左)ヲ示スニハ5ニ依ル	
27	故障	片手ヲ以テ「×」ヲ數回描ク	
28	故障恢復	27ノ信號ニ次テ2ノ信號ヲナス	
29	第一、第二、……	右手ニテ體ノ前方ニ日本數字ヲ以テ一、二……ト書ク	
30	數量	(1)「1、2、3、4」ハ片手ヲ以テ體ノ前方ニ「Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅲ」ト書キ「5」ハ帽子、小旗又ハ手巾等ニテ「6」以上ハ前記「5」ト「1、2、3、4」トノ組合セニ依リ「〇」ハ手旗(現字)ノ零原劃ニ依リ示ス (2)「1、2、3、4」ハ棒等ノ數ニテ示シ「5」以上ハ(1)ニ準ス (3)指數ニテ示ス (1)ローマ數字ヲ用フ	一、字ノ向キハ受信者ニ對シ正對又ハ反對何レニテモ可以下同シ 二、Ⅰ號Ⅱ號等ハ29 30ノ內何レカノ方法ニテ示ス

備考

一、本表ノ外砲兵操典第三百十一ノ記號及砲兵觀測通信教範草案通信附表第五ノ觀測信號ハ之ヲ併用スルモ

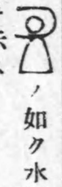
二、(1)(2)等數種類ヲ揭ケアルモノハ中隊ニ於テ適宜某一種ヲ教育スルモノトス

野戰砲兵用身振信號ノ一例

用語	ノ意味	信號	摘要	使用例
信	信、應信、了解、	1)手旗(現字)ノ起信 2)拍手ナス	片手ヲ高ク擧ク	(本例ニ掲クル數字一、二、三、五、〇等ハ30ニ依リテ示ス數量ノ1、2、3、20、等ハ信號番號ヲ示ス)
信、止メ、未完	繰リ返セ		額前ニテ片手ヲ小サク左右ニ振ル	一、右後方ノ戰車ヲ警戒セヨ(1、5、15、8、2)
報告セヨ……ヨキヤ	……ヨキヤ		片手ヲ平ニ當テ物ヲ聞ク眞似ナス	
右(左)側方、左(左)方、前(上陵ノ方ニ寄レ		片手ヲ其方向(絶對方向)ニ出ス	刀旗等ヲ併用スルコトアリ	二、左上方ノ敵飛行機ヲ監視セヨ(1、5、14、8、2)
		右(左)掌ヲ寄スル方ニ向ケ急速ニ振ル		
備		掌ヲ前ニシ兩手ヲ高ク擧ク		三、前方ニ瓦斯アリ段列ハ完全防護セヨ(1、5、10、21、12、2)
ヨ、監視セヨ、警		兩拳ヲ兩眼ニ當テ頭ヲ左右ニ廻シ眼鏡ニテ捜索スル眞似ナス		
開	間隔開閉ノ記號ナス		對空行動等ニ於テ使用ス	四、段列前進準然宜キヤ(1、21、22、7、4、2)
隊形ニ復セヨ		片手ノ掌ヲ以テ額ノ廻リヲ撫テ廻ス		
斯アリ或ハ裝面セヨ		10ノ信號ニ次テ3ノ信號ナス		
斯ナシ或ハ脫面セヨ				
防護セヨ		10ノ信號ニ次テ片手又ハ兩手ヲ以テ上體及下肢ヲ撫テ廻ス		
防護セヨ		10ノ信號ニ次テ片手又ハ兩手ヲ以テ下肢ヲ撫テ廻ス	馬ノ場合ニハ兩拳ヲ以テ馬ノ歩行ノ眞似ナシ次テ上記ノ信號ナス	
飛行機		兩拳ヲ側方ニ出シ馬ノ飛フ眞似ヲナス		
部隊(敵戰車)		兩手ヲ以テ自動車ノ操縱轉把ヲ廻轉スル眞似ヲナス		五、榴霰彈百發補充セヨ(1、39、若ハ40、一〇〇、23、2)或ハ(1、23、39、若ハ40、一〇〇、2)
擊セヨ		火砲、右手ヲテ拉繩ヲ引ク眞似ヲナス騎(小)銃據銃射擊ノ眞似ヲナス		
迫攻擊班対迫攻擊セヨ)		銃劍ニテ突ク眞似ヲナス		
官(分隊以上)		片手ニテ頭ヲ數回叩ク		
隊(長)		小隊、兩手ヲ體ノ側方ニ(小ノ字形)ノ如ク擧ク小隊長ヲ示スニハ前記ノ信號ヲ次テノ信號ナス		
隊(長)		分隊、兩手ヲ頭上ニ(分ノ字形)ノ如ク擧ク、外19ニ準ス		
列(長)		兩ヲ以テ體ノ前方ニ(彈形)ヲ描ク外19ニ準ス		
來レ、前ヘ(前進)		(1)前進ノ記號ナス (2)片手ニテ招ク		
ヲ補充セヨ		所在ノ物料ヲ肩ニ載セ歩ク眞似ヲナス	彈種ヲ示ス要アルトキハ本信號ニ次テ射擊用中ノ彈種信號ヲ準用ス	
(駄馬)前ヘ		兩手ヲ以テ體ノ前方ニ圓ヲ描キ次テ22ノ信號ナス		
前車掛ケ一馬ヲ繫ケ		放列布置ト同樣ノ記號ナス		
セ(馬ヨリ卸セ)		兩手ヲ以テ物ヲ持チ上クル(抱ヘ卸ス)眞似ナス右(左)ヲ示スニハ5ニ依ル		
障		片手ヲ以テ「×」ヲ數回描ク		
障恢復		27ノ信號ニ次テ2ノ信號ナス		
第二、……		右手ニテ體ノ前方ニ日本數字ヲ以テ一、二……ト書ク		
量		(1)「1、2、3、4」ハ片手ヲ以テ體ノ前方ニ「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」ト書キ「5」ハ帽子、小旗又ハ手巾等ニテ「6」以上ハ前記「5」ト「1、2、3、4」トノ組合セニ依リ「〇」ハ手旗(現字)ノ零原劃ニ依リ示ス (2)「1、2、3、4」ハ棒等ノ數ニテ示シ「5」以上ハ(1)ニ準ス (3)指數ニテ示ス (4)ローマ數字ヲ用フ		一、字ノ向キハ受信者ニ對シ正對又ハ反對何レニテモ可以下同シ 二、Ⅰ號Ⅱ號等ハ29、30ノ内何レカノ方法ニテ示ス

表ノ外砲兵操典第三百十一ノ記號及砲兵觀測通信教範草案通信附表第五ノ觀測信號ハ之ヲ併用スルモノトス等數種類ヲ掲ケアルモノハ中隊ニ於テ適宜某一種ヲ教育スルモノトス

二、射撃用

番號	號令	信號	摘要
28	故障恢復	27ノ信號ニ次テ2ノ信號ヲナス	
29	第一、第二、……	右手ニテ體ノ前方ニ日本數字ヲ以テ一、二……ト書ク	
30	數量	(1)「1、2、3、4」ハ片手ヲ以テ體ノ前方ニ「Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅲ」ト書キ「5」ハ帽子、小旗又ハ手巾等ニテ「6」以上ハ前記「5」ト「1、2、3、4」トノ組合セニ依リ「〇」ハ手旗(現字)ノ零原劃ニ依リ示ス (2)「1・2・3・4」ハ棒等ノ數ニテ示シ「5」以上ハ(1)ニ準ス (3)指數ニテ示ス (4)ローマ數字ヲ用フ	一、字ノ向キハ受信者ニ對シ正對又ハ反對何レニテモ可以下同シ 二、Ⅰ號Ⅱ號等ハ29 30ノ内何レカノ方法ニテ示ス
31	射撃信號、符號(起信)	一、片手ヲ以テ體ノ前方ニ數回圓ヲ描ク(手旗現字零字原劃) 二、藥莢等ヲ以テ打チ鳴ラス	
32	照準具	(1)傳令其他ノ方法ニ依リ豫メ示ス (2)片手ヲ握リテ眼ニ當テ片手ヲ高ク頭上ニ擧ケ5ニ依リ照準點ノ方向ヲ示ス(地物ハ傳令ヲシテ指示セシム)	本二
33	方向	(1)片手若ハ兩手ヲ以テ頬ヲ打チ「ホ」ヲ聯想セシメ次テ30ニ依リ分畫ヲ示ス (2)回轉盤ヲ操作スル眞似ナシ次テ30ニ依リ分畫ヲ示ス	2
34	基準	片手ヲ以テ「キ」字ヲ書ク	號
35	右(左)ヘ	右(左)手ヲ左(右)側方ニ出シ反對翼ニ大キク半圓ヲ描ク	右ヘ
36	右(左)ヨリ	右(左)手ヲ右(左)側方ニ出シ反對翼ニ大キク半圓ヲ描ク	右ヨリ
37	開ケ(縮メ)	兩手ヲ前ニテ合セ側方ニ開ク(開ケ) 前項ト反對ニ動カス(縮メ)	開ケ
38	方向蓄ヘ	(1)33ノ信號ニ次テ片拳ヲ眼ニ當テ片手ニテ搖架轉把回轉ノ眞似ヲナス (2)片手ニテ「モ」字ヲ書ク	三
39	榴霰彈曳火信管	(1)片拳若ハ兩拳ヲ頭上ニ上ケ次テ頭上ニテ開ク (2)片手ニテ「サ」字ヲ描キ次テ信管測合ノ眞似ヲナス (3)片手ニテ「サエ」ト書ク	
40	榴霰彈著發信管	(1)兩手ヲ合セ頭上ニ擧ク、彈形ヲ示ス) (2)片手ヲ以テ「サチ」ト書ク	四
41	榴彈瞬發信管	(1)片拳若ハ兩拳ヲ頭上ニ上ケ開カス (2)右拳ヲ以テ左掌ヲ打ツト同時ニ開ク (3)片手ヲ以テ「リシ」ト書ク	
42	榴彈短延期信管	(1)右拳ヲ以テ第一彈道ヲ描キ第二彈道ニテ掌ヲ開ク (2)右拳ヲ以テ左掌ヲ打チ開カス (3)片手ヲ以テ「リタ」ト書ク	
43	尖鋭彈	片手ヲ以テ「セン」ト書ク	
44	破甲榴彈	片手ヲ以テ「ハコ」ト書ク	五
45	裝藥	片手ヲ以テ「ソ」字ヲ書キ次テ30ニ依リ裝藥號ヲ示ス	
46	高低	兩手ヲ  ノ如ク水平ニ出シ次テ30及49ニ依リ角及增減量ヲ示ス	
47	度	片手ヲ以テ濁點「ク」ヲ書ク	
48		信管測合ノ眞似ヲナシ次テ30及49ニ依リ數量及高(下)縮ノ伸量ヲ示ス	
49	增セ、高メ、縮メ(減ケ、下ケ、伸ハセ)	片手ヲ下(上)ヨリ上(下)ニ擧ク(下ク)	增セ、高メ、縮メ
50	射距離	射角變換ノ眞似ヲナシ次テ30依リ射距離ヲ示ス	六
51	高(低)射界	片手ヲ以テ「コウ」「テイ」ト書ク	
52	中除	(1)帽子若ハ小旗等ヲ兩手ニ持チ頭上ニ高ク擧ク (2)片手ヲ以テ「タイ」ト書ク	①
53	第一、第二、第三、第四	29ニ依リ示ス	右小隊ハ第一第四 左三門ハ第二、第三、第四 ニテ示ス
54	發射、擊テ、次キ	右手ヲ以テ拉繩ヲ引ク眞似ヲナス	左小隊發射ハ 三、四 54
55	發	30ニ依リ發數ヲ示シ次テ右手ヲ以テ彈丸裝塡ノ眞似ヲナス	
56	續イテ込メ	兩手交互ニ前方ニ突キ出シ裝塡ノ眞似ヲナス	
57	秒	(1)30ニ依リ秒數ヲ示ス (2)腕時計ヲ指シ次テ30ニ依リ秒數ヲ示ス	

備考

一、本表ノ外砲兵操典第三百十一ノ記號及砲兵觀測通信教範草案通信附表第五ノ觀測信號ハ之ヲ併用スルモノトス

二、(1)等數種類ヲ掲ケアルモノハ中隊ニ於テ適宜某一種ヲ教育スルモノトス

擊用

號令	信號	摘要	使用例
量	前記「5」ト「1、2、3、4」トハ組合セ使用スル場合ニ於テハ「1、2、3、4」ハ棒等ノ數ニテ示シ「5」以上ハ(1)ニ準ス (2)手旗(現字)ノ零原劃ニ依リ示ス (3)指數ニテ示ス (4)ローマ數字ヲ用フ		何レカノ方法ニテ示ス
射擊信號、符號(起信)	一、片手ヲ以テ體ノ前方ニ數回圓ヲ描ク(手旗現字零字原劃) 二、藥莢等ヲ以テ打チ鳴ラス		本例ニ掲クル數字一、二、五、〇等ハ30ニ依リテ示ス數量ヲ1、2、3、20等ハ信號番號ヲ示ス 一、方向二千五百七十二、第一基準十開ケ標點方向書ケ五七二、2、(33)
照準具	(1)傳令其他ノ方法ニ依リ豫メ示ス (2)片手ヲ握リテ眼ニ當テ片手ヲ高ク頭上ニ擧ケ5ニ依リ照準點ノ方向ヲ示ス(地物ハ傳令ヲシテ指示セシム)		
方向	(1)片手若ハ兩手ヲ以テ頬ヲ打チ「ホ」ヲ聯想セシメ次テ (2)30ニ依リ分劃ヲ示ス (3)回轉盤ヲ操作スル眞似ナシ次テ30ニ依リ分劃ヲ示ス		二、37、2、67、70、2) 榴彈瞬發信管、高低百二十三千第一發射續イテ込メ指令各個ニ撃テ(41、46、50) 三、〇〇、〇、2、第一(29)54、56、2、60、61
基準	片手ヲ以テ「キ」字ヲ書ク		
右(左)へ	右(左)手ヲ左、右側方ニ出シ反對翼ニ大キク半圓ヲ描ク	右へ	
右(左)ヨリ	右(左)手ヲ右(左)側方ニ出シ反對翼ニ大キク半圓ヲ描ク	右ヨリ	
開ケ(縮メ)	兩手ヲ前ニテ合セ側方ニ開ク(開ケ) 前項ト反對ニ動カス(縮メ)	開ケ	2)榴霰彈曳火信管 三、中隊信管修正高ク 六、二千八百一發 五秒右ヨリ撃テ(39、52、2、48、49、 一、55、05、二八〇(、2 六、2、五(57ヶ (1)ニ依ル場合)36、54、2)
方向著へ	(1)33ノ信號ニ次テ片拳ヲ眼ニ當テ片手ニテ搖架轉把回轉ノ眞似ヲナス (2)片手ニテ「モ」字ヲ書ク	①	
榴霰彈曳火信管	(1)片拳若ハ兩拳ヲ頭上ニ上ケ次テ頭上ニテ開ク (2)片手ニテ「サ」字ヲ描キ次テ信管測合ノ眞似ヲナス (3)片手ニテ「サエ」ト書ク		四、左小隊高低十增セ信管三ツ高メ三千五百三發連續各個ニ撃テ(第三、第四(29)46、54、2)
榴霰彈著發信管	(1)片拳若ハ兩拳ヲ頭上ニ上ケ開カス (2)片手ヲ以テ「サチ」ト書ク		
榴彈瞬發信管	(1)兩手ヲ合セ頭上ニ擧ク(彈形ヲ示ス) (2)右拳ヲ以テ左掌ヲ打ツト同時ニ開ク (3)片手ヲ以テ「リシ」ト書ク	① ②	
榴彈短延期信管	(1)右拳ヲ以テ第一彈道ヲ描キ第二彈道ニテ掌ヲ開ク (2)右拳ヲ以テ左掌ヲ打チ開カス (3)片手ヲ以テ「リタ」ト書ク	① ②	
尖鋭彈	片手ヲ以テ「セン」ト書ク		
破甲榴彈	片手ヲ以テ「ハコ」ト書ク		
射距離	射角變換ノ眞似ヲナシ次テ30依リ射距離ヲ示ス		五、1)號諸元書ケ標點方向取レ第四基準六ツ綰メ二千四百遠ク百三距離ニ發連續各個ニ撃テ(2)67、71、2、(一、68、2)
裝藥	片手ヲ以テ「ソ」字ヲ書キ次テ30ニ依リ裝藥號ヲ示ス		
高(低)射界	兩手ヲ ノ如ク水平ニ出シ次テ30及49ニ依リ角及增減量ヲ示ス		
低	片手ヲ以テ濁點「ク」ヲ書ク		
增セ、高メ、縮メ(減ケ、下ケ、伸ハセ)	信管測合ノ眞似ヲナシ次テ30及49ニ依リ數量及高(下)縮ノ伸量ヲ示ス		六、61、2) 度三二千六百三方左三回三發三十秒各個ニ撃テ(33、五〇、35、2、一〇、47、三、2、二六〇、65、一〇、46、57645045、三、2、15、三、2、三、ノ②三〇、61、2)
	片手ヲ下(上)ヨリ上(下)ニ擧ク(下ク)	增セ、高メ、縮メ	37、2、50、二四(〇、63、二、55、2、59、)
第一、第二、第三、第四	29ニ依リ示ス		第四(29)34、33、五、
帽子若ハ小旗等ヲ兩手ニ持チ頭上ニ高ク擧ク 片手ヲ以テ「タイ」ト書ク	①		右小隊ハ第一第四 左三門ハ第二、第 三、第四 ニテ示ス
發射、撃テ、次キ	30ニ依リ發數ヲ示シ次テ右手ヲ以テ彈丸裝塡ノ眞似ヲナス		左小隊發射ハ 三、四 54
何回次キ	右手ヲ以テ拉繩ヲ引ク眞似ヲナス		
秒	(1)30ニ依リ秒數ヲ示ス (2)腕時計ヲ指シ次テ30ニ依リ秒數ヲ示ス		
連續	(1)兩手ヲ以テ體ノ前方ニテ急速ニ物ヲ叩ク眞似ヲナス (2)片手ヲ以テ「レン」ト書ク		
指命	(1)右食指ニテ數回自己ノ眼ヲツツク眞似ヲナス (2)片手ヲ以テ「メ」字ヲ書ク		
續イテ込メ	兩手交互ニ前方ニ突キ出シ裝塡ノ眞似ヲナス		

46	増減	増減量ヲ示ス	片手ヲ以テ濁點「〃」ヲ書ク
47	度		片手ヲ以テ濁點「〃」ヲ書ク
48	縮伸	管測合ノ眞似ヲナシ次テ30及49ニ依リ數量及高(下)量ヲ示ス	
49	増セ、高メ、縮メ(減ケ、下ケ、伸ハセ)	片手ヲ下(上)ヨリ上(下)ニ擧ク(下ク)	増セ、高メ、縮メ
50	射距離	射角變換ノ眞似ヲナシ次テ30依リ射距離ヲ示ス	
51	高(低)射界	片手ヲ以テ「コウ」「テイ」ト書ク	
52	中除	①帽子若ハ小旗等ヲ兩手ニ持チ頭上ニ高ク擧ク ②片手ヲ以テ「タイ」ト書ク	①
53	第一、第二、第三、第四	29ニ依リ示ス	右小隊ハ第一、第四 左三門ハ第二、第三、第四ニテ示ス
54	發射、擊テ、次キ	右手ヲ以テ拉繩ヲ引ク眞似ヲナス	左小隊發射ハ三、四54
55	發	30ニ依リ發數ヲ示シ次テ右手ヲ以テ彈丸裝塡ノ眞似ヲナス	
56	續イテ込メ	兩手交互ニ前方ニ突キ出シ裝塡ノ眞似ヲナス	
57	秒	①30ニ依リ秒數ヲ示ス ②腕時計ヲ指シ次テ30ニ依リ秒數ヲ示ス	
58	何回次キ	①回數ニ應スルタケ54ヲ繰リ速ス ②30ニ依リ回數ヲ示シ次テ54ヲ現示ス	
59	連續	①兩手ヲ以テ體ノ前方ニテ急速ニ物ヲ叩ク眞似ヲナス ②片手ヲ以テ「レン」ト書ク	
60	指命	①右食指ニテ數回自己ノ眼ヲツツク眞似ヲナス ①片手ヲ以テ「メ」字ヲ書ク	
61	各個ニ擊テ	兩拳ヲ斜前上方ニ交叉シ左右下方ニ連續拉繩ヲ引ク眞似ヲナス	
62	急キ擊テ	駈歩ノ眞似ヲナシ次テ54ヲ現示ス	
63	散布	片手ヲ以テ體ノ前方ニ遠(近)ノ距離數ニ應シ上(下)ニ段ヲ刻ム眞似ヲナス 但遠ク(近ク)百何距離ノ場合ハ百ノ數字ハ現示セス	遠ク百三距離 近ク五二距離
64	右(左)何回	右、左、手ヲ以テ搖架轉把旋回ノ眞似ヲナシ次テ30ニ依リ旋回數ヲ示ス	
65	右(左)掃射	右(左)手ヲ以テ掃射方向ニ物ヲ縦ニ刻ム如ク方向數タケ句切リ次テ64ニ依リ旋回數ヲ示ス 但シ掃射間隔十密位ニ應スル場合ハ64現示セス	三方向 右三回(改野砲) 二方向 左二回(四一山砲) 64ニ
66	表尺	兩拳ヲ重ネテ眼ニ當テ眼鏡ヲ見ル眞似ヲナス	
67	標點(目標)	①片手ヲ以テ「十」字ヲ書ク ②片手ヲ以テ「ヒヨ」ト書ク	
68	諸元書ケ	①右手ヲ以テ左掌又ハ手簿ニ物ヲ書ク眞似ヲナス ②片手ヲ以テ「カケ」ト書ク	
69	諸元取レ	①左掌又ハ手簿ヲ見テ右手ヲ以テ方向射角變換ノ眞似ヲナス ②片手ヲ以テ「トレ」ト書ク	
70	方向書ケ	①33ヲ現示シ次テ68ヲ現示ス ②33ヲ現示シ次テ片手ヲ以テ「カケ」ト書ク	
71	方向取レ	①33ヲ現示シ次テ左掌又ハ手簿ヲ見テ回轉盤ヲ操作スル眞似ヲナス ②33ヲ現示シ次テ片手ヲ以テ「トレ」ト書ク	
72	擊方待テ	①片手ヲ以テ歩度減却ノ記號ヲナス ②片手ヲ以テ「マテ」ト書ク	
73	擊方始メ	①ヲ現示シ次テ前進ノ記號ヲナス ②片手ヲ以テ「ハシ」ト書ク	
74	擊方止メ	①ヲ現示シ次テ停止ノ記號ヲナス ②片手ヲ以テ「マテ」ト書ク	

備考

一、送信者ハ號令ノ一句切毎ニ句切符ヲ現示シ受信者ハ了解セハ必ス其都度了解符ヲ以テ應答シ小隊長(裝面ノハ音聲ヲ以テ複唱(傳達)スルモノトス

二、(1)等數種類ヲ掲ケアルモノハ中隊ニ於テ適宜某一種ヲ教育スルモノトス
(2)

野戰砲兵用身振信號ノ一例作爲ノ主旨

一、本身振信號ハ野戰砲兵中隊ノ戰斗指揮ニ於テ戰場必須ノ命令、號令、報告其等必要ナル事項ヲ手眞似身振ヲ以テ描キ又ハ簡單ナル文字或ハ記號等ニ短距離(約百五十米内外(直接指揮可能ノ範圍))ニ傳達スルヲ目的トシテ

二、隨時隨所ニ輕易ニ活用シ且敵前近距離ニ於テ實施スルノ要アル場合ヲモ顧慮シ増種ノ材料ヲ用フルコトナク勉ノ物料ヲ以テ現示スルヲ主義トス

三、文字又ハ記號等ニ依ルセノハ教育ヲ複雜ナラシメサル意味ニ於テ砲兵觀測通信教範草案(通信)附表ニ掲ケアルルモノハ之ヲ採用ス

低				片手ヲ以テ濁點「ク」ヲ書ク
			「管測合ノ眞似ヲナシ次テ30及49ニ依リ數量及高(下)縮ノ伸量ヲ示ス	
セ、高メ、縮メ(減ケ、下ケ、伸ハセ)				片手ヲ下(上)ヨリ上(下)ニ擧ク(下ク)
距離				射角變換ノ眞似ヲナシ次テ30依リ射距離ヲ示ス
(低)射界				片手ヲ以テ「コウ」「テイ」ト書ク
除				①帽子若ハ小旗等ヲ兩手ニ持チ頭上ニ高ク擧ク ②片手ヲ以テ「タイ」ト書ク
一、第二、第三、第四				29ニ依リ示ス
射、擊テ、次キ				右手ヲ以テ拉繩ヲ引ク眞似ヲナス
				30ニ依リ發數ヲ示シ次テ右手ヲ以テ彈丸裝塡ノ眞似ヲナス
イテ込メ				兩手交互ニ前方ニ突キ出シ裝塡ノ眞似ヲナス
回次キ			①30ニ依リ秒數ヲ示ス ②腕時計ヲ指シ次テ30ニ依リ秒數ヲ示ス	
			①回數ニ應スルタケ54ヲ繰リ速ス ②30ニ依リ回數ヲ示シ次テ54ヲ現示ス	
續			①兩手ヲ以テ體ノ前方ニテ急速ニ物ヲ叩ク眞似ヲナス ②片手ヲ以テ「レン」ト書ク	
命			①右食指ニテ數回自己ノ眼ヲツツク眞似ヲナス ①片手ヲ以テ「メ」字ヲ書ク	
個ニ擊テ			兩拳ヲ斜前上方ニ交叉シ左右下方ニ連續拉繩ヲ引ク眞似ヲナス	
キ擊テ			駈歩ノ眞似ヲナシ次テ54ヲ現示ス	
布			片手ヲ以テ體ノ前方ニ遠(近)ノ距離數ニ應シ上(下)ニ段ヲ刻ム眞似ヲナス 但遠ク(近ク)百何距離ノ場合ハ百ノ數字ハ現示セス	遠ク百 三距離 近ク五 二距離
(左)何回			右、左、手ヲ以テ搖架轉把旋回ノ眞似ヲナシ次テ30ニ依リ旋回數ヲ示ス	
(左)掃射			右(左、手ヲ以テ掃射方向ニ物ヲ縱ニ刻ム如ク方向數タケ句切リ次テ64ニ依リ旋回數ヲ示ス 但シ掃射間隔十密位ニ應スル場合ハ64現示セス	三方向 右三回 (改野砲) 二方向 左二回(四一山砲) 64ニ
尺			兩拳ヲ重ネテ眼ニ當テ眼鏡ヲ見ル眞似ヲナス	
點(目標)	①片手ヲ以テ「十」字ヲ書ク ②片手ヲ以テ「ヒョ」ト書ク			
元書ケ	①右手ヲ以テ左掌又ハ手簿ニ物ヲ書ク眞似ヲナス ②片手ヲ以テ「カケ」ト書ク			
元取レ	①左掌又ハ手簿ヲ見テ右手ヲ以テ方向射角變換ノ眞似ヲナス ②片手ヲ以テ「トレ」ト書ク			
向書ケ	①②33ヲ現示シ次テ68ヲ現示ス ②33ヲ現示シ次テ片手ヲ以テ「カケ」ト書ク			
向取レ	(1)33ヲ現示シ次テ左掌又ハ手簿ヲ見テ回轉盤ヲ操作ス眞似ヲナス ②33ヲ現示シ次テ片手ヲ以テ「トレ」ト書ク			
方待テ	(1)ヲ現示シ次テ歩度減却ノ記號ヲナス ②片手ヲ以テ「マテ」ト書ク			
方始メ	(1)ヲ現示シ次テ前進ノ記號ヲナス ②片手ヲ以テ「ハシ」ト書ク			
方止メ	(1)ヲ現示シ次テ停止ノ記號ヲナス ②片手ヲ以テ「マテ」ト書ク			

送信者ハ號令ノ一句切毎ニ句切符ヲ現示シ受信者ハ了解セハ必ス其都度了解符ヲ以テ應答シ小隊長(裝面ノ場合ハ分隊長)ハ音聲ヲ以テ複唱(傳達)スルモノトス

(1)②等數種類ヲ掲ケアルモノハ中隊ニ於テ適宜某一種ヲ教育スルモノトス

野戰砲兵用身振信號ノ一例作爲ノ主旨

身振信號ハ野戰砲兵中隊ノ戰斗指揮ニ於テ戰場必須ノ命令、號令、報告其等必要ナル事項ヲ手眞似身振ヲ以テ聯想シ易キ形象ヲ採リ又ハ簡單ナル文字或ハ記號等ニ短距離(約百五十米內外(直接指揮可能ノ範圍))ニ傳達スルヲ目的トシテ作爲ス

隨所ニ輕易ニ活用シ且敵前近距離ニ於テ實施スルノ要アル場合ヲモ顧慮シ增種ノ材料ヲ用フルコトナク勉メテ手若ハ所在ノ材料ヲ以テ現示スルヲ主義トス

又ハ記號等ニ依ルセノハ教育ヲ複雜ナラシメサル意味ニ於テ砲兵觀測通信教範草案(通信)附表ニ掲ケアル信號中適用シ得ノハ之ヲ採用ス

北海道旭川市二條通八丁目
印刷者　合資會社　㊞岡田商會
川本猶次郎
電話　二五四四番
振替小樽五五二七番